

# 総合教育会議 資料

資料 1	平成 30 年度第 2 回（通算第 4 回）	1
	学校再編検討会議 資料	
資料 2	平成 30 年度第 2 回（通算第 4 回）	32
	学校再編検討会議 意見・提言等のまとめと議事録	
参考資料	平成 30 年度 第 2 回総合教育会議 要旨	41

平成 30 年 11 月 29 日



## 地域部会の開催状況及び意見のまとめ

地 域 部 会	1回目	2回目
志 染 中 学 校 区	8月30日	10月4日
星 陽 中 学 校 区	9月3日	10月1日
吉 川 中 学 校 区	9月28日	10月22日
三 木 中 学 校 区	10月11日	
三 木 東 中 学 校 区	10月10日	
別 所 中 学 校 区	10月23日	
緑 が 丘 中 学 校 区	10月17日	
自 由 が 丘 中 学 校 区	10月18日	

※各地域部会の「意見のまとめ」は、三木市ホームページで公開しています

# 第1回 志染中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年8月30日

会場：志染町公民館

## 1 喫緊の課題「志染中学校は緑が丘中学校との統合が望ましい」という方向性について

- 志染中廃止ではなく、青山方面から生徒を呼び込めないのか。
- 昨年度実施したアンケートによると、保護者の多くは、志染中も何らかの再編が必要と考えている。
- 保護者の意見は統廃合が多いが、これは、PTAなど、保護者の負担も考えての意見だと思う。
- 少人数により部活もできない。中学校はこのままではやっていけないのではないか。
- 中学校は統合が必要である。なぜなら、競争心が必要だから。2クラスくらいの中でもまれ、高校でさらに多くの生徒の中に入っていくのが良いと思う。

## 2 統廃合実施時の課題

- 通学路や制服はどうなるのか。
- 緑が丘中へ行くとなると、坂が大変に感じる。それなら自由が丘中が良いと思う方もいる。
- 小集団しか経験していないため、子どもが、高校ではなかなか馴染めなかったことがある。
- 子どものことを考えると、小規模校から大規模校に入ると、始めの頃は、コミュニケーションが難しいと思う。
- 2つの学校を事前の交流や準備が不十分なまま急いで1つにすると、危険性がある。そのことも考えてやらないと、OKは出せない。
- 5か月後には、小6生対象の入学説明会がある。はっきりとした見通しや区切りが欲しい。

## 3 三木市の学校再編に係る全体案

- 義務教育学校を建てる立地が重要で、地域の選定をしっかりと考えないといけない。
- 志染小中一貫校からスタートしてはどうか。義務教育学校のメリットは何か伝わっていない。
- どのように小中一貫校へもっていくのか。小中一貫で特色を出して、青山方面から子どもを呼び込むことも考えてはどうだろうか。
- 少人数が良いと思って、他の地域から志染地区に帰ってくる人もいる。多くの子どもの中だと埋もれてしまうかもしれない。
- 特色ある学校にして、地域を活性化して、志染地区に学校を残してほしい。
- 小集団の中だけでは、いろいろなことで他校には勝てないと考えてしまい、ふさがちになることがある。少人数のままでは、友達の幅は狭く、競争心は低いままである。
- 志染地区の統合ではなく、三木市全体で再度校区割を考えてもらえないか？
- 子ども達のためには、何かの手を打つ必要がある。しかし、志染、星陽だけが動くのはどうかと思う。
- 三木市として、何年後にこうなるとか、将来的に、ここに学校が出来ると計画を示してもらえば、考えやすい。

#### 4 小学校の再編

- 小学校では、統廃合について、なかなか声が上がっていない。まずは中学校という思いがあり、「小学校も含んで」という方向性には戸惑っている感じがする。
- 「小学校は残す、中学校は統合する」というのが、地域の方の多くの考えだと思う。
- 全国的に見ても、志染と同じような地域もある。志染もへき地同様、小学校まで集約する必要があるのか。

#### 5 地域の願いや課題

- 志染の子どもは、将来の農業の担い手である。
- 田んぼを貸すという方法も考えていけば、志染も人が増えるのではないだろうか。
- 小学校の段階で、ふるさとを意識し始めると思う。学校がなくなると過疎になる。学校が地域コミュニティの役割を果たすため、小学校が残れば過疎化の歯止めになると思う。しかし、子ども達のことを考えると、どうすればいいのか悩ましい。
- 20年、30年先ではなく、まずは10年先を考えないと過疎になる。
- 学校がなくなるデメリット・メリットを地域の方が認識していないように感じる。
- 保護者の考えとしてだが、志染に人々が戻って来ない理由としては、交通の不便さがある。バスは1時間に1本しかないなど、魅力を感じない。加えて、農業をするのが大変であり、村の役もたくさん当たるから大変と感じる。
- 志染地区には家が建てられないので、青山、自由が丘地区に行かれている方もいる。
- 都市計画で団地など建てて、施設を集中させてはどうか。今は、量販店が近しくなく、高齢者にとっては大変である。
- 子ども達のことを考えるなら、地域に密着した教育をすることが大切である。

#### 6 学校の様子

- 家庭、地域でしっかり子どもの様子を見てもらえているのでありがたい。小規模校は一人一人きめ細やかな指導がなされ、家庭と学校の連携が図れており、特色ある学習活動を進めている。体育祭も小学校と中学校が合同で実施し、ある意味では小中一貫校のような取組も実施している。
- 少人数のため、同じ学年で、多様な意見を交流したり、集団ゲーム（サッカーやドッジボール等）をしたりすることは、物理的に制限される面はあるが、様々な工夫をしながら教育活動に取り組んでいる。
- 高学年の児童がいない地区の場合などは、登校時に地域、保護者の方に引率していただいたり、見守っていただいたりして、安全面に配慮している。
- 志染の子は小学校からずっと一緒なので、人間関係の広がりには課題がないとは言えないが、素直さと寛容でバランスを取りながら、みんなと一緒にいろんな活動に取り組み、心身にしみこむように着実な成長を見せている。
- 部活動は、3年生が引退すると部員がいなくなる部、他校に出向き合同で活動し大会に出る部などもあり、学校の部活動として活動しづらくなっている。

#### 7 その他

- 学校再編に係る問題点の情報が全くない。資料として提供されていない。
- 三木市の政策により、地域から出ていくか留まるかが決まる。
- 地域の方は、問題点が何であるのかが分からない中でアンケートに答えている。
- 予算面も含めて、総合的に考えていけないといけない。
- 再度アンケートが必要なのではないかと思う。

## 第2回 志染中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年10月4日

会場：志染町公民館

### 1 現在の通学方法

- 中学校は、通学方法として全員自転車でもOKとしている。歩いてきても良いが、ほとんどいない。通学路を大きく分けると3つになる。東側は御坂から学校、西は安福田（あぶた）のカーブから学校、窟屋交差点から学校にそれぞれ続く道に、各地域から集まってきて通っている。通学には遠い生徒で30分ほどかかり、ゆっくりとしても40分あれば学校に着く。しかし、三津田、戸田の一番端からだと、もう少し掛かるのではないかと思う。男女差もある。テスト期間などは、教職員が各所に立って、下校指導をしている。
- 小学校は、3種類の通学方法がある。吉田・東吉田・安福田・戸田地区から通う児童は、バス通学をしている。三津田地区から通う児童は、現在、保護者による送迎で通学している。御坂・窟屋・井上・志染中・高男寺・細目地区から通う児童は徒歩通学をしている。徒歩については、距離がある場合もあるが、人の目の垣根隊の方や保護者の方に見守っていただくなど、安全に配慮して通学している。

### 2 通学に関する課題

- 緑が丘中学校に統合すると仮定すると、青山まで登っていく坂が大変であり、登下校における子どもの体力面に不安がある。また、近頃は暗くなる時間が早いので、防犯上の面からも不安に思う。登校に係る時間や距離の規定はあるのか。
- バスでの送迎を考えても良いのではないかと思う。距離によっては、中学生は、自転車通学を取り入れても良いと思う。自由が丘中学校に統合すると仮定しても、距離があり、交通事故のリスクは高まるので、同様にしてはどうかと思う。
- 具体的には何も決まっていないが、あえてと言うならば、バスか自転車くらいしか考えられない。
- 現在の志染中学校の場所に一旦自転車で集まり、そこからバスで行くという方法も考えられる。スクールバスにしても、時間の問題がある。他の地域の生徒より20分は早く家を出ないといけないだろう。スクールバスだと時間通りに動くが、路線バスだと遅れることなどもある。
- スクールバス、路線バス、どちらにしても、1便だけではなく複数便走るようにしてもらいたい。
- 青山の坂を自転車で下るのは、ものすごいスピードになる。登りのしんどさだけではなく下りの安全も考える必要がある。
- 緑色のバス（コミュニティーバス）が走っているが、それらもうまく活用しながらスクールバスとして走らせると保護者負担も少なくなる。
- 制服、自転車など保護者に負担にならないようにしてもらいたい。

### 3 学校の再編方法（喫緊の課題及び小中一貫校や義務教育学校への再編）

- 今、緑が丘中学校か自由が丘中学校かという形で話が進んでいる。保護者がOKならいいが、子どものことをしっかりと考えないといけない。
- 喫緊の課題である志染中学校と星陽中学校の課題を解決してから、小中一貫などを考えるべきではないだろうか。市外の学校に通わせようという人が出てくるかもしれない。しっかり受け皿を準備するため、もっと早く指針を出すべきだ。

- 残した方がいいという方もいるし、自由が丘中学校や緑が丘中学校が良いという方もいる。保護者全員に対する情報提供が少なすぎる。より多くの情報を市から出しているだけ、保護者の意見をよく聞きいてほしい。再度、より具体的なアンケートを実施してほしいという意見もある。
- 早急に決めてもらいたいと言う人もいれば、時期尚早という人もいる。
- 通学、制服、移行の学年、一貫校を設立してから一気に移行すべき、今の部活にもメリット・デメリットがある、他校と合同で活動すれば良いなど、人によって様々な意見があり、それらを聞いていると、個人的にもとても悩む。
- 少人数は少人数なりのいいところがある。それをもう一度考えてほしい。
- 喫緊の課題として、今後、小6や中1の子がどうしたらいいかを考えることや見通しを持てるように情報を示すことが大切である。
- アンケートも1つの方法だが、本当にそれでいいのか。保護者の生の意見を聞く場をつくる方がいいのではないか。保護者の意見をどのように聞いていくかは、今後PTAでも検討していきたい。
- 子どもや保護者に不安がないように計画的に進めることが大切である。
- 志染中学校に今の段階でいる子どもたちは今のまま、新一年生から新しい学校に行くという方法が良いのではないか。その方法が可能であるのか。

#### 4 その他の課題

- 緑が丘や自由が丘の人たちは、どんな意見を持っているのか。
- 相手の地区の保護者や地域の方が志染のことを、どれだけ考えられるかが大切である。志染について、実感はないと思うが、一緒に考えることが必要である。
- 子どもたちの感覚では、志染の子は転入生という感じかもしれない。それではいけない。どちらの子も経験していないことだが、手を取り合っていかなければならない。
- 大きな学校が、志染を吸収するという考えではいけない。
- 住宅地や農村部など、住んでいる地域により、考え方が異なるため、いろんな摩擦が出てくるだろう。それをいかにケアするかが大切になってくる。
- 志染中学校が大きな学校と一緒になったとしたならば、生徒の数は10分の1程度だから、しんどく感じることもあると思う。下校時刻も住宅地と志染とでは差がある。そこをしっかりと考えていく必要がある。

#### 5 全般について

- 「統合しないとしたら」という話はいつできるのか。統合することが前提で話をしているような印象があるが、もっと早く、市民に説明を行うべきで、他の校区の人は、学校再編についてほとんど知らない。ベッドタウンとしてできた、自由が丘、青山、緑が丘地区の方は移動（引っ越す）ことができる。もともとの志染に住んでいた人は移動ができない。農業は移動ができないことや子どもと地域を切り離せないということを忘れないでほしい。
- 志染小学校は、置いておきたいが、志染という町がなくなったらどうしようもない。それを住民はもっと考えなければならない。これからは、農業の存続が困難で、一部の地域は、田畑をコンピュータ管理したり、農業機械の自動化を進めたりはしている。学校と地域の問題の両方を考えなければならない。
- ここの地域がいかに素晴らしいかが、子どもたちに伝わっていない。その反面、良さを教えれば、子どもは純粋で分かってくれると思う。
- 地域の間人として、学校をお手伝いできることは何かを考えていきたい。

## 第1回 星陽中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年9月3日

会場：星陽中学校

### 1 喫緊の課題「星陽中学校は吉川中学校との統合が望ましい」及び「星陽中学校と吉川中学校を統合した場合、口吉川小学校及び豊地小学校は、吉川中学校区の小中一貫校、義務教育学校への統合が妥当である」という総合教育会議が示した方向性について

- 中学校の学校再編は、やむなしだと考える。
- 統合をすることで、一定の集団規模としていくことは必要であろう。
- 細川地区の保護者は生活圏が三木であるため、吉川中学校への通学は抵抗がある。
- 瑞穂小がなくなった際のイメージがあり、学校がなくなることへのアレルギーはある。星陽中学校、志染中学校はどこかに吸収されてしまうという捉え方がある。
- 統合した学校においては、部活動の数が一定の期間維持できる形の統合を希望する。
- 子どもの人数が増加することで部活動が維持でき、校区外の学校へ行く者も減るのではないだろうか。
- 自分の経験として、部活動がいい思い出になっている。部活動に制限がかかるのならば統廃合をし、適正規模にすることが必要である。

### 2 統廃合実施時の課題

- 今後、統合方法等のアンケートを取った場合、意見が2分されてしまった場合はどうするのか。
- 通学など、子どもに負担の少ない統合の仕方を望む。
- 子どもの負担として、低学年の遠距離の通学は負担が大きい。

### 3 三木市の学校再編に係る全体案

- 人口が減るから統廃合ではなく、減少する人口の中で魅力的な学校づくりをしていくことが大切なのではないか。
- 創造的な再編であってほしい。新しい学校にいろいろな価値をもたせることが大切である。
- 統合についてのマイナス面がクローズアップされている。プラス面をもっとアピールできればよい。
- 今の案が人数を合わせるだけのものに見える。三木市全体の方向性をもっと分かりやすく示してほしい。
- 学校規模だけでなく、通学方法などとセットで案を示してもらいたい。
- 学校の施設や位置がどのように変わっていくかなど、統廃合の流れがわかるよう地域住民にも示してもらいたい。
- 過去に、幼稚園の廃園が拙速に進み、後になってからいろいろ問題が出てきた。時間をかけることも必要ではないだろうか。



#### 4 小学校の再編

- 小学校については、地域のコミュニティの核としての存在意義もある。
- 統廃合ありき、賛成か反対かだけしかないのか。子どもの教育を大切にするという立場とともに、地域コミュニティの中にある学校という立場もあるのではないか。
- 小学校1年から3年生は、分校制度のような形で今のままの学校で学び、4年から6年生は吉川地区と統合して、一定規模の学校の中で学ぶような2段階にする形もあるのではないだろうか。
- 中学校と小学校の問題は、同じではない。小学校の問題は、慎重にして欲しい。

#### 5 地域の願いや課題

- ゴルフを活用した地域おこしや教育プログラムの開発を進めてはどうか。
- 統廃合後の学校跡地の利用方法検討が必要である。ゴルフアカデミーなどの特徴がある施設としての活用はできないか。
- 子どものため、ある程度の人数の集団が大切だと分かっているが、地域の思いがある。
- 三木市として、人口増加への取組が示されていない。

#### 6 学校の様子

- 学校の歴史や戦前の教育の良さを地域が受け継いで学校や子どもを育てている。
- 多くの地域の方々に、学校教育に関わっていただいている。
- 新学習指導要領の中で示されている、「多様な考え方に触れる」という点では、集団の規模も大切だと考える。
- 合唱、運動会の種目、行事など、体験できる内容が限られてくる場合がある。そのために、現在は吉川小と豊地小の間で様々な連携をしている。
- 保護者の方も、小規模校の良さや不安の両方の考え方を持っている。通学のことも含めて、見通しのある案を示してほしい。
- 高学年の児童にリーダーとしての自覚を強く持たせながら学級経営を進めるなど、小規模校ならではの取組ができています。
- 子ども達は少ない人数を少ないと感じていない面もある。今の環境しか知らないのはメリットでもあり、デメリットでもある。
- 中学校では、少人数での人間関係構築に注意をはらったり、部活動の運営において工夫したりしている。

#### 7 その他

- OHPをひらいても、議事録に行きつかない。もっとわかりやすく広報をしてほしい。
- 新聞報道を見たが、統廃合ありきを感じられ、進め方に疑問が残る。発表されるもっと前に地域の声を聞くべきではないかと思う。
- 統廃合には、お金の問題があるはずだが、資料には出てこない。財政面は大丈夫なのだろうか。
- 遠方に住んでいる私の子どもの意見として、「実家に移り住んだとしても、1学年の子どもの数が1桁の学校はイヤだ」と言っている。
- 自分の経験から、いきなり高校から大きな集団になじむのは大変であった。

## 第2回 星陽中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年10月1日

会場：星陽中学校

### 1 現在の通学方法

○（中学校）路線バスでの通学生は8名いる。登校時は、7時台に学校に到着する便が3本ある。下校時は、16時、17時、18時に便があり、部活の終了時刻は、バスの時刻に合わせて決めている。雨天時や遅い時は、保護者の方が送迎されている。

バス通学生以外は、基本的に自転車で通学している。自転車で一番遠い場所は、学校から7、8kmある。

○（豊地小）。瑞穂地区の14人はスクールバスで登下校している。高畑地区4人はワゴン車タイプのスクールバスで高篠地区まで来て、そこから徒歩で登校している。スクールバスであっても、バス停や道路状況により様々な課題がある。低学年の児童は高学年の下校時刻を待って、一緒に下校することも増えている。人数が少なくなるので、下校時には気を遣っている。休日のバス運行にも検討課題がある。

○（口吉川小）学校の所在地が、校区の真ん中あたりにある。基本的には全員徒歩で通学している。集合場所から奥まっているような家もあり、遠い場所では、40分から50分かかる。集団下校であっても、一人になってしまう場所では、保護者の方に迎えに来ていただくこともある。

### 2 通学に関する課題

○高校生の登下校と重なった場合、バスが満員で乗れないことがある。全員が安心して乗れるよう路線バスを充実させる（大型、便数）ことが必要である。

○路線バスだけでは難しいと感じる。学校専用のスクールバスを出す必要がある。

○保護者はスクールバスが出るものと考えている。路線バスでは納得できないと感じる。

○三木中か吉川中になるとしても、自転車通学はやめてほしい。

○スクールバスを利用するようになり、通学の安全性や利便性を高めることが、学校再編のメリットと捉えることができる。

○スクールバスの場合、一筆書きのように家々を全て回るので、乗っている時間が長すぎるため、2ルート以上用意する必要がある。

○困難が予想されるが、便数を増やすなど、市がバス会社に働きかける必要がある。

スクールバスが全てではない。危険性はあるが、バスに乗ることは学ぶ場にもなる。

○学校と家との距離で画一的に区切るのではなく、適切な交通手段の確保はして欲しい。

○道路状況、交通量や不審者など心配がある。集団下校するにしても生徒が少ない。

○財政の問題も当然ある。朝夕は子どもたちが利用し、昼間は、地域の方もそのバスを活用できるようにするなど、地域コミュニティーバスとして活用する方法を考える。

○自転車とスクールバスを組み合わせる方法もある。しかし、雨天時などの課題がある。

○田舎なので（家が分散しているため）ある程度は、通学に関して、地域も家も協力する必要がある。

### 3 小中一貫校や義務教育学校について

- 小中一貫校を経て、義務教育学校にゴールが決まっているのであれば、急がずに準備をしっかりとした上で、義務教育学校をめざしたらいいのではないか。
- 学校再編については、急がずにすすめて欲しい。今の学校のスタイルは、今後大きく変わっていくと思われる。いろいろな施設、設備が不要になる可能性がある。
- 義務教育学校の9年は長すぎる。小中で環境は違うので、小中一貫校が現実的である。
- 子どもの数の計算で5校に再編するのでは、地域の意向などが考慮されていない。学校の再編（設置）が数合わせになるので、もう少し丁寧に説明して欲しい。
- 25年先を見越した将来の学校再編について検討するならば、もっと若い方の意見をを入れて議論するべきだと考えている。
- 移行の仕方について、保護者や地域の事を聞いてもらえるのか。方向性の案を何パターンか提示されたが、地域の意見を聞いた上で、条件やパターンを示して欲しい。
- 地域に学校があるという良さがある。また、この地域の良さも教育して欲しいという願いがある。大きい学校に行きたいと思わない人もいる。ただし、1学級の人数はもっと多い方がよい。豊地小学校と吉川小学校で授業や行事で繋がりを大切にしながら、それぞれの小学校は残してほしい。
- 吉川の地域は過去に何度も、統廃合してきた歴史がある。吉川小学校は残して欲しいという思いは強い。ただし、1学年20人～30人規模ではあってほしい。
- 豊地小学校は、今のままがよい。再編について何か決まれば、意見が出せるが、今は意見が出しにくい。

### 4 その他 全般について

- 地域性を知る機会がとても少なく、大人になっても、戻ってこない。公民館行事に参加することも大切だと思う。
- 防災上の関係からも、学校は安全な場所を確保して建設して欲しい。
- 豊地小学校の保護者の多くは三木に向いている。三木中学校まで6km、吉川中学校まで13kmと距離が長い。埋められない物理的な距離がある。また、吉川中については、いずれ1クラスになる。
- 今後の市としての進め方については、どうする予定なのか。豊地小学校では、12月にPTAで話し合いを持ちたい。小グループで話し合うなど、いろいろな意見を出し合い、具体的な案を出したい。この地域出身でない方が地域の思いを十分理解して、再編方法を決定できるかどうか疑問がある。自分たちで地域のことに責任をもちたい。
- 学校再編については、じっくり考えて方向性を出したいという地域の思いがある。一方、今いる子どもたちのことを考えていく必要もある。人によって温度差もある。
- 中学校は早期に決めていく必要があると考える。ただ、再編した場合、大きい集団では活躍できない子がいることも確かである。小規模の学校ならば、他の中学校区から、希望者を募って入学者を受け入れるようにして欲しい。
- 学校は、ゴルフやテニスなど、特色を押し出していく必要がある。政策により人を呼び込む方法を考えていくことも大切である。

## 第1回 吉川中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年9月28日

会場：吉川町公民館

### 1 喫緊の課題「吉川地区の4小学校については、施設に許容力のある「みなぎ台小学校」に集約することが妥当である。」という方向性（案）について

- 1学年2クラス以上の児童に対応した教室の数を確保できるのは、みなぎ台小学校だけなのか。
- 建物を見ると新しいので、すぐに移行するのであれば、みなぎ台小学校が良いのではないかと思う。
- 統合するには、中吉川小学校を校舎として使うということもできるのではないかと考えている保護者もいる。
- まちづくり協議会のアンケートでは、統廃合を望む意見と小規模校を残すことを望む意見とに分かれている。現状のままという選択肢があるのかどうか知りたい。その前提により、保護者の意見は変わるかもしれない。
- 新築すると時間がかかるので、既存の校舎であれば、みなぎ台小学校を使うのがいいのではないかと考えている。
- 統廃合すると、今まで小規模校（少人数）の中で生活してきた子どもたちが、多くの人前では意見を言えなくなるのではないかと心配する保護者がいる。
- 何が正しいかは分からないが、個人的には、出会った人の数だけ子どもの可能性は増えるのかなと思うので、大人数の中でもまれるのは良いことであると思う。
- 大人数の中での教育を望んでいる人ばかりではない。今の進め方のように、そこまで急ぐ必要があるのか。

### 2 統廃合実施時の課題

- 統廃合に際して、スクールバスを走らせる予定はあるのか。その際に、バスの乗車運賃は有料になるのか、無料になるのかを心配する声を聞いている。
- バスに乗れなかった時、自家用車で送迎する保護者が増えると、住宅街であるみなぎ台小学校周辺は、登下校中の児童の交通安全が心配である。
- みなぎ台小学校は、校舎の構造上、オープンスペースが多いため、児童が増えた時には、落ち着いた学習環境を維持するため、教室の一部を改修などが必要である。
- 安全性から、バス通学に肯定的な保護者もいるが、バスの本数が少なければ、何か用事がある時の迎えや部活の送迎で大変な思いをすることも。メリット、デメリットをしっかりと紹介してもらえれば、いろいろな判断がしやすい。

### 3 三木市の学校再編に係る全体案

- 学校の小規模化が進む中で、学年の児童数が2人や3人になってしまう前に、市全体で計画的に対応策を講じる責任がある。
- 市は、スケジュール案を示し、ゴールに向かって、意見を集約しているような感じがあり、保護者は不安を感じている。加えて、具体的な再編案が示されているので、どんどん不安を感じていく印象がある。
- 子どもを育てている父親と母親のうち、片方は、吉川町出身の方ではない場合が大半

なので、小学校に対する思いは薄く、「統合したらいい」と感じている人が多い。反対に、吉川で生まれ育った方（父親か母親）やその両親は、残してほしいと感じており、家庭内でもギャップがある。

○学校で人と繋がるのではなく、インターネットなどで外の世界と繋がることで多様性や社会性を学ぶということもある。そのような形に変化していくことも、人数の少ない地域では、仕方がないかもしれない。

#### 4 地域の願いや課題

○地域部会と並行して、地域ごとに説明会を開いて、意見を聞く必要がある。

○小学校に入学する段階で、児童数が少ないために吉川町内の小学校ではなく、他の地域の小学校に行きたい、というような意見があるのではないか。

○小学校が地域から無くなることをどう捉えているのか。地域における学校の存在意義を踏まえて、意見をもっと聞かせてほしい。

○東吉川小学校は、市内の3大避難所に定められていると聞いている。統廃合後、その小学校が無くなった時に、高齢の方や足の不自由な方は、どこに避難すればいいのかという声を聞いている。

#### 5 学校の様子

○本校は小規模であり、全ての子どもに目が届きやすい。また、地域の方が、協力や支援を快くしてくれる。

○将来のことを考えると、もう少し人数が多い場で学ぶ機会も必要ではないかと思う。

○伝統のある学校なので、地域の方の意見も尊重する必要がある。

○多様なふれあい体験を全校授業などで行い、高学年が良い見本として活躍している。

○複式学級だが、複数の教員による指導や指導方法の工夫により、学力をつけている。

○中学校では、急激に生徒数が減り、今年の1年生は、1学級になった。小学校の児童数の推移を見ると、当分の間は1学級が続くようである。

○少人数ということ「弱み」と捉えるのではなく、学年を超えて、全教職員で子どもたちを指導できるという「強み」として教育活動を行っている。

○自分のしたい部活がないから、他の中学校へ行きたいと考える人もいる。学級数が減ると教職員も減るので、現状のままでは、部活動の統廃合を検討する必要がある。地域の社会体育団体との協力や移行を検討する時期に来ている。

#### 6 その他

○説明がない中で、案がひとり歩きし、みなぎ台小学校に行かないといけないと思ってしまった。

○統廃合された場合、校舎校地の跡地利用を考えてほしい。そのまま放置は悲しい。

○校長先生の話では、少人数の中でも工夫をして、子ども中心に教育活動が行われていることがよく分かった。

○この地域部会でも多くの意見が出ているが、この場で学校再編の形を決めるというわけではない。色々な意見がある中で、何をもって、どのように三木市の学校再編の方針が決定されるのかが見えない。

○他の保護者と話をしている中で感じたことは、1つは寂しさ、1つは焦り、1つは仕方がないという気持ちだった。

## 第2回 吉川中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年10月22日

会場：吉川中学校

### 1 通学に関する課題

- 朝の登校時間帯に、みなぎ台小学校周辺の交通量が多い。こども園の送迎に保護者の車が80台ほど来る。緩和のために、始業時間に時間差を設けるのはどうだろうか。
- 現在、学校によっては、下校時間が学年によって違ったり、一斉下校であったりする。バスを走らせる場合、複数の便数が必要になる。放課後に勉強をさせたり、遊んだりできるように対応してもらうことは可能なのか。
- 地域により、統合先の学校まで距離が長く、陸上の練習や行事で遅くなる時、保護者が迎えに行くのは難しいかもしれない。さらに1便必要だ。通学経路や距離によっては、バスに乗っている時間がだいぶ変わるため、コースや便数には工夫が必要である。
- 低学年の終業時間と高学年の終業時間の差を埋めるために、低学年と高学年と一緒に下校させたり、帰りのアフターを無料にして、勉強できたりする環境を作れば、帰りの時間もまとまった時間になり、多少遅い時間にバスで帰っても、近くまで親が迎えに行くことも可能になる。下校時間の調整の工夫を保護者は願っている。
- 職員や保護者のための駐車場の確保も必要ではないか。みなぎ台の入り口に、20年ぐらい使用していない浄化槽の施設があるので、活用を考えてみてはどうか。
- 登下校時のみなぎ台小学校周辺の交通量が多いが、バス送迎の利便性が低ければ、保護者の送迎が更に増える可能性がある。子どもたちのために、枠組みを見直して行く必要がある。
- 仕事で、子どもの帰宅時間に保護者がいない家庭は、遅く帰ってきてくれる方が良い。
- 瑞穂地区のバスは1路線だけだが、バス停や運行時間の調整が大変であった。ルートや子どもの数によって、バスのサイズや本数も影響し調整が複雑になると予想される。
- 家から集合場所までさらに時間がかかると、かなりの時間差が出て、スクールバスが不便に感じられる。バス停までの距離は、家から徒歩5～10分ほどで行ける場所で選定すべきである。下校時、真っ暗になれば、家までの徒歩が心配である。

### 2 学校の再編方法（喫緊の課題及び小中一貫校や義務教育学校への再編）

- 将来、小中一貫校や義務教育学校になる見通しがあって、その前段階で小学校が統合するということをしかりと周知し、皆が理解しておくことが大切である。そうでないと小学校の統合後に、小中一貫校に再編される際、統廃合の繰り返しに見える可能性が出てきてしまう。
- 違うところに学校が建つと、一度に学校が5つなくなってしまい、地域の特色が失われる不安や避難所などの不安がある。
- 小中一貫校（義務教育学校）で進めていくのならば、先の見通し足元を固め、賛成の数が少しでも反対の数を上回れば、市としての方針を出して進めるべきではないか。
- 今は少人数だから、一人ひとり手厚く見てもらっている。大人数になった時、運動面に関してはいいが、学習面が不安である。
- 少人数と多人数での学習を比べて、少人数の方が手厚く見てもらえるので学力が上がると考えるのはどうかと思う。子どもや教員、学び方によって変わってくる。
- 少人数できめ細やかに見れても、その効果は限定的だ。やる気がある子は伸びるし、ない子はどんなに手厚くされてもなかなか伸びない。そこは理解しておかなければならない。子ども同士による相互の学びもあり、人数の多い少ないは一長一短がある。
- 人数が増えることについて、親の関心事は2極化している。1つ目は、大勢の中で、

取り残される子になってしまうのではないかという不安と2つ目は、大勢の中で揉まれて競争心などが出てくるという期待である。

○運動場が小中一緒だと、授業や部活の兼ね合いはどうなるのか。制服や体操服はどうなるのかといった疑問がわいてくる。

○小中一貫のメリットは小中の隔たりがないことだが、上級生の影響が悪い方に出てしまうことにも不安がある。そのような時、地域の方のコミュニティスペースを併設することにより、子どもと地域の方との交流もでき、見守りにもなる。下校時に一緒に帰るということもできる。

○中学生は部活動があるので、通学の問題がある。どこまでが自転車通学になるのか。

○統合で校区が広範囲になるので、地域で友だちと遊んだり集団行動を学んだりするような場面ができるのか。この地域部会の中に子どもの声を取り入れてほしい。

○小野市や加東市（今後建設）の小中一貫校があるが、その関係の話が聞ければ少しはイメージがわくが、今はあまりピンと来ない。

### 3 事前準備及び交流

○イベントだけの交流ではなく、例えば、週1回で勉強会をどこかの学校で一緒にするなどのレベルでやっておいてはどうか。学年単位なら1台のバスで移動も可能だ。

○いきなり合併するとなれば、学級が5人だったのが30人程度になるので、それをする前に、ある程度の期間交流の回数を増やすなどする必要がある。

○子どもは、行事や習い事でも顔見知りになるが、親は機会が無い。PTA行事も学校によって違うので、各学校が今何をしているか、何を大事にしていくかを少なくとも1年ぐらいかけて、すり合わせる必要がある。積み立てされているお金の問題もある。

○今現在ではなく、昔から積み立てられたお金でもあるので、統合までに無理して使うのではなく、新しい学校のために使ったらいいと思う。

### 4 小中間連携教育、小小間連携教育の状況

○小学校間の交流については、5年生で自然学校、6年生で人権学習と修学旅行、他の学年でも様々な体験学習（校外学習）などの機会がある。

○小学校と中学校の教育上の連携はよく行っている。しかし、中学校の教師が小学校を訪問したりするなど、教師の連携が中心である。中学校の行事に小学生を招待するなど、まだやれることはあると考えている。

○但馬の方では、期間や曜日を決めて、どこかの学校に集まり交流をすると聞いている。いきなり統合するのではなく、そのような慣れるための取り組みが必要ではないか。

### 5 全般について

○廃校になった学校を地域の人が喜んで訪れる場所にするなど、夢のある廃校利用も並行して考えてほしい。

○今は大人の意見のみ聞いているが、子どもの立場になって、子どもの意見ももう少し聞いてあげてほしい。

○新聞にあったみなぎ台小学校に集約するという案が、決定だと思っている方が多い。統廃合に反対されている方の多くはそこに抵抗がある。

○統廃合となると、教員の数も関係してくる。現場の教員はどう考えているのか。

○統合の目的は何かを明確にしてほしい。吉川の人口、子どもの数は減ってきているが、外から三木に移住したくなるようなビジョンを、学校の建設時に示してもらいたい。アフタースクールのようなものができれば、皆さんに喜んでもらえるのではないか。人が集まるツールとしての学校づくりをしてほしい。

## 第1回 三木中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年10月11日

会場：中央公民館

### 1 三木中学校区周辺の課題

- この地域は、いつごろ再編の対象になるのか。早く学校（小中一貫校など）が建つところと、10年後、20年後となるところでは、地域によって不公平にならないか。ここの地域が何十年経っても変わらないというのも疑問である。
- 三木東中学校は、かつて三木中学校から分かれたという経緯もあるので、大きめの学校である三木東中学校なども再編の対象とし、三木中学校、別所中学校なども含めた広いエリアで再編を検討することも一つである。特定の小規模だけの話ではなく、もっと全体を見て、違う視点で考えることも大切。
- 三木中学校も無くすというぐらいの大胆な再編案も考えられる。学校の跡地については、町づくりのこともしっかりと見据えた施設を考える必要がある。
- 校区は地区と連動しているが、学校再編と地域づくりの考えが、ちぐはぐになると前には進まない。
- 祭りとの関連もあるのではないか。水利関係の問題など、若い世代には見えてこないようなことも課題になってくるのではないか。
- 一部の地区では子どもは増えているが、また一気に減るのではと懸念している。それを抑えるための活動、現状維持を目指す活動を自治会でも考えていく。

### 2 統廃合について

- 星陽中学校区の人たちの気持ちを十分に汲み取ることが大切になる。今も他の地域から入学してくる子がいるが、個別にケアを行っている。三木中学校は、複数の小学校区から生徒が集まってくるので、星陽中学校区から来ても、お互いの人間関係づくりについては馴染みやすく、大丈夫だと思う。
- 地域により文化が異なる。三木中学校という町の中にある学校に行くことにプレッシャーがある子どももいるだろう。本当にあの学校に行きたいという感じにならないと、他の地域や市外への引越しなどが進むのではと懸念している。
- 豊地小学校区の子どもが三木中学校に来た場合、吉川小学校区の子どもだけでは、吉川中学校が小さくなってしまう。吉川中学校に人を呼び込む方策を考えなければならない。星陽中学校が吉川中学校と統合するという案も一つの考えではある。
- 豊地小学校区の子どもが三木中学校に来るのであれば、三樹、平田、三木小学校と並んで、豊地小学校も三木中学校区となり定着していくので、いずれは、少人数が加わるというイメージは緩和することができるのではないだろうか。
- 小さな学校から大きな学校に行く場合には、少人数の子どもを可能な限り同じ学級に入れることで、初期のギャップを和らげることができるのではないか。
- 加東市は、計画的に3つに集約したが、町の成り立ちから考えると、同じようにはできない。三木市は、将来を見据えた校区の再編が必要となる。
- 部活によっては、帰宅の時間がバラバラとなる。そのことにも対応する必要がある。そう考えると、公共交通については難しいかもしれない。



- 時間の融通が利くスクールバスがいいが、平日のことだけでなく、土日の部活についてはどうなるのかなど、いろいろな課題がある。
- 自宅からバス停までの距離も気をつけなければならない。無理矢理三木中学校に行かされている、ということにならないよう配慮が必要である。
- 通学の距離は、やはり親として気になる。安全のことがやはり大事。皆にとって一番良い場所に良い学校ができれば、住む人が増えてくるのではないだろうか。子どもをどこに通わせたいかという視点で考えることも大切である。
- 星陽中学校と三木中学校を統合すると、吉川小学校区の生徒にとっては、三木中学校までの道のりがあまりにも遠い。安全に通うことができることが大切。

### 3 三木市の学校再編に係る全体案

- 小中一貫校と義務教育学校の違いや特徴をもっと知りたい。再編を進めていくためのもう少し具体的なスケジュールが知りたい。
- ICT 機器を使って通信し、授業や交流を進め、週の中で決められた曜日だけ大きな学校に行き、人と関わるといったことも考えられる。これからの時代、全員が学校に集まって学ぶということが続くかどうかはわからない。多様なことにチャレンジさせることが大切で、画一的なことをやっている、伸ばしていない力もあるのではないか。
- 市内に義務教育学校、一貫校、普通の学校が並列してある時、義務教育学校には独自のカリキュラムがあるため、他の学校に転入や転出する場合に課題が出てくるかもしれない。大胆な考えだが、平等にするためには、三木市内で一斉に再編するののも一つのやり方ではないか。学校名も含めて、皆にとって新しい学校にしてスタートするというのも考えられる。
- 一人の子が2回、3回と行く学校が変わることがないように、早目にゴールを設定することが必要と思う。
- 数十年先の将来はどうなるか分からないので、5年や10年くらい先を目標にして考えることが大切ではないか。
- 人口が減っているから出てきた話だが、予測を基に先のゴールを決めて進めることが大切と思う。
- 認定こども園(幼稚園)などとの関連性も図りながら進めてほしい。

### 4 その他全般

- 学校のことだけではなく、町自体をどうするかという時代が10年後には来る。
- 今の状況がよくわかった。三木市の魅力発信が少ない。教育の方面からも、他の方面からも三木市全体を盛り上げていき、人を増やすことが必要である。
- 仕事で三木に移り住んでまだ日が浅いが、色々なことを知れた。その中でも、喫緊の課題の学校に焦点を絞り、何とかしていかなければ、前には何も進まない。
- 学校再編に当たっては、皆さんの不安を少なくすることが大切である。人が減るといった残念なこともあるが、良い学校や良い教育を作っていくという前向きなことも知らせていくことが大事である。
- 他の地区で話し合われた内容を理解した上で、三木市の全体像や三木地区のこれからについて検討していくことが必要だと考える。

## 第1回 三木東中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年10月10日

会場：三木南交流センター

### 1 三木東中学校区周辺の課題

- 三木小学校は、卒業後に2つの中学校に進学先が分かれるため、校区の再編も、今後は検討する必要があるかもしれない。子ども、親のニーズを理解した上で進めなければならない。
- どちらかと言えば、小学校の卒業生がみんな同じ学校に進学することがいい。
- 子どもたちの人口は、今後減っていく。今、三木中学校と三木東中学校とに分かれて進学している三木小学校の進学先についても、変える必要があるかもしれない。
- 地域の中でも三木中に行きたい人、三木東中へ行きたい人など、考え方はいろいろある。
- 三木東中学校の校区の中でも、子育て世代が選ぶ居住地は、さつき台などの学校に近い住宅地が多いのではないか。
- 今までは人ごとのように思っていたが、三木東中学校区の児童・生徒数の予測を聞くと、思ったより減少が早いことが分かった。他人ごとではないと感じる。

### 2 統廃合について

- 三木市内にある小規模校は、地域とのつながりが深いと思う。地域の方の気持ちを大切にしながら進めてもらいたい。
- 喫緊の課題の地域の方々は、どういう考えを持っているのか。それを知りたい。
- 統廃合後については、学校の跡地利用もしっかりと考えなければならない。
- バスなどの通学方法も含めて考える必要がある。単純に校区割りするだけでは難しい。

### 3 三木市の学校再編に係る全体案

- 小中一貫校を目指しており、自分の経験上も、9年間同じ場所で教育を受けた良い経験がある。その時にできた強い繋がりがあり、今でも仲が良い。
- 今はまだ喫緊の課題でない地域だが、これからの学校のあり方をじっくり選択する時間にしたい。
- 小中一貫校に再編されるときには、校舎を新設するのか。
- 小中一貫校は魅力的であるが、通学の問題は気になるところである。
- 小中一貫校、義務教育学校は、校区が広がってしまうので通学が大変になるのではないだろうか。しっかり検討しなければならない。
- 新設するとしたら、土地の選び方によって校区も変わるのではないか。
- 子どもの人口推計の数字をもとに5校区となっているが、三木市内でも地域に

- よって人口の偏りもあるのではないか。
- 地域のつながりは薄くなるが、もっと先を見据えて3校程度にしてもよいのでは。人口が大きく減る地域では、市外の中学校へ進学する方もいる。いずれ5校より学校数を減らすことに、現実味が出てくるかもしれない。
  - 小規模中学校の統合の話から、小中一貫校の話に変わってきていることへのとまどいもあるのではないだろうか。
  - 小中一貫校の流れがあるのであれば、起こりうる弊害の可能性について、十分に気をつけながら進めるようにしなければならない。

#### 4 小学校と中学校の連携

- 新入生が中学校生活（授業や部活動）のリズムに慣れるまでは、一学期間ほどかかるが、大きな中1ギャップについては、事前に小中連携の取組を進めていく中で無くなってきたと感じられる。
- 小学校では、登校班などで異年齢集団ができています。助け合っている場面をよく見ており、教育的効果が高い。部活動で縦の繋がりのある活動を行っているが、部活動以外で異学年交流を実施しても、更に効果があると考えます。
- 小学校には6才から12才までの児童がおり、6年間という縦に大きな人間関係がある。リーダーになる5、6年生は、下級生と交流することで良い顔になり、大きな成長が期待できる。
- 広野小学校は、校区のさつき台に住む子どもの数が減る局面にあり、急激な児童の減少が起きてきている。いずれ、もっと減少した場合には、小中一貫校など、9年間のスパンで子どもを育てることも大切になってくる。

#### 5 その他全般

- 学校は、村の文化などを背負っているという側面がある。
- 農村部では、いろんな役がまわってくるから、地域を出たいと考える方もいる。田んぼがあるからその土地を出られないという実態もある。そうした思いの子育て世代は、地域を離れ、住宅地に移りたいという流れがある。
- 全国を見れば、2つの居住地を持ち、都会生活と田舎生活の二重生活ができる仕組みもある。神戸市と三木市の隣り合った関係から、住民を増やす方法として、そうした施策も必要ではないかと思う。
- 人口の増減はどこでも起こる。急いで統合することはないかもしれない。
- 地域に子どもの声なくなるのは寂しい。地域に子どもが集える場所が欲しい。
- 教育の分野だけ、2つ以上の市町村で共同運営しているような例はあるか。
- 実家のある小野市は、市内のバス（コミュニティーバス）がよく走っている。バス路線のあり方など、人口の推移を見ながら、学校と同時に地域社会などについても考えることが大切だと思う。

## 第1回 別所中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年10月23日

会場：別所中学校

### 1 別所中学校区周辺の課題

- 別所地区の良いところは、地域の人子どもを育てているという雰囲気があること。人の目の垣根隊の方にもたくさん協力してもらっている。その「地域性」が無くなるのではないかと心配で、今までのものを崩されることに反対する声も当然あると思う。
- 別所地区の中でも子どもが少ない地域や学校から遠い地域は、保護者の負担も大きい。
- 何年後かに、別所小学校が無くなり、三樹小学校や三木小学校に行くとなったら、やはり通学距離が気になる。

### 2 三木市の学校再編に係る全体案

- 統合や小中一貫校への再編をすることで、通う学校が何度も変わるのはいらない。学校と地域の役割や関係は、長年にわたって築かれてきたものである。次にいつ学校が変わると言うのでは不安である。
- 再編を実施する際は、校区や移行時期など柔軟に対応してほしい。
- 小中一貫校や義務教育学校について、話を聞いていると良い点が多いようなので早く実現してほしい。
- 再編して新しい学校をつくっていくのであれば、心の面、学習面においてしっかりと成果が出ないといけない。教育に費用対効果は馴染まないかもしれないが、学校は、国家100年の大計の要と捉えて、系統的な教育を行う必要がある。
- 小学校を卒業し、中学校に進学するという流れが無くなるのは寂しいが、小中一貫教育と言うので進めていっていいのではないかと。6・3制というものが全てではないと思う。
- 9年間同じ学校に通い続けると変化がないため、強くなれないのではないかと。変化のある中で精神的に強くなり、困難を乗り越えていく力がつくという考え方もある。
- 小学校を卒業して、中学校に行くという経験はできないが、節目節目にイベントを考えてあげると良い。学校再編と周辺地域の発展についても考えなければならない。
- 発達段階、安全面、衛生面等を考えると、階段の高さや窓の手すりなど、学校の施設設備はよく考えないといけない。
- 健常児の教育に焦点を当てて考えられているが、障害児の教育についてもおろそかにならないようにしなければならない。

○再編すると、どうしても遠くから通う人が出てくる。下校時間について、平日はある程度決まった時間なので良いが、土日は部活動などもあり、登下校時間もバラバラになり、負担になるのではないかと思う。

○学校を再編することで予算に余裕がある場合には、人員を増やす方に使用してもらいたい。例えば、小さい地域の保護者は、水泳の監視など、PTAの負担が増えてしまうかもしれないので、人員を配置するなど考えてほしい。

### 3 小学校と中学校の連携、異学年交流

○別所地区は、一小一中ということで、小学校と中学校の連携はとても進めやすい。今は、小中でお互いに教員が授業を見学したり、児童が部活動や授業を見学したり、体験したりする取組を行っている。

○中学校入学時には、学習や部活動、先輩との話し方などに戸惑いがあることがアンケートからも分かっている。様々な取組を通じて、不安の解消に努めているが、小中一貫校や義務教育学校にすることでそのような不安が取り除かれることが期待できる。

○別所小学校では、なかよし班活動という異学年で交流する時間があり、6年生がリードして1から6年生と一緒に遊べる活動を企画している。ほかにも、修学旅行の時期には1年生に折鶴の折り方を教えたり、登下校時に、1年生のランドセルを持ってあげたりする6年生の姿をよく見かける。

### 4 その他全般

○別所地区には、巴、朝日が丘などに新興住宅地がある。吉川などの喫緊の地域にも住宅地をつくって、人が集まるような施策、より若い世代が入ってくる施策を市で考えてもらいたい。

○小規模をどうするかではなく、例えば、三木中学校の生徒を星陽中学校に行かせるという逆の発想はできないのか。

○今は潤沢な予算があるわけではない。学校再編に係る費用はとても大きいので、熟慮して進めなければならない。

○学校が無くなると、その周辺に家は建たないという可能性がある。

○小中一貫校や義務教育学校に再編することで、縦に関係する人数は増えるが、今のままだと横の人数は増えない。学校の再編と共に、横の人数を増やす（住民を増やす）ことも考えないといけない。

○中学校の部活は非常に大事だと思う。学習面だけではなく、横の繋がり、縦の繋がりを学ぶことができる。指導者の確保にも努めて、部活を維持しないといけない。

## 第1回 緑が丘中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年10月17日

会場：緑が丘中学校

### 1 今後の統合案について

- 志染中学校と緑が丘中学校を統合するのであれば、新しい学校を一緒に創ろう、一緒にスタートしようという思いであるべきである。
- 緑が丘地域や青山地域の方と目の前の課題と感じている志染地域の方とでは、学校再編について温度差がある。これからしっかりと話し合っていく必要がある。
- 子どもはすぐに溶け込んでいけると思うが、ケアはしっかりとする必要がある。保護者の方はとても不安だと思う。どうしていくのかをしっかりと、説明していくことが必要である。
- 吸収されるというような言葉で、子どもの心にひずみを持たせてはいけない。それを無くしていくのは、大人の役割だ。
- 統合するとなった時に、どう準備して、どうケアしていくかを考えることが大切だと思う。
- 校区が広くなると、中学校は通学の面で自転車やバスで大丈夫だと思うが、小学校となると心配がある。
- 同じ生活圏と言う観点では、自由中学校、緑が丘中学校、志染中学校区について大きなくくりや視点で、一緒に考えることも必要である。
- もともとは志染地区であったところに自由が丘、緑が丘ができたという経緯がある。御坂神社の祭りなどオープンにして、皆が集えるものにしてはどうか。
- 志染小学校、中学校は創立から長い歴史がある。地域性もあり、地域の繋がりが強い。当然、抵抗感はあるだろう。
- 高校へ行けば自転車などで遠方へ通うことが多い。年齢のことは当然あるが、中学生が自転車で通学することは可能だと思う。

### 2 三木市の学校再編に係る全体案

- 小中一緒にいろいろな活動するのはプラスの面が多い。年上の子は小さい子に優しくなれるだろう。そうすることで、自分の居場所ができていく子もいる。
- 縦の人間関係があると、兄弟がいなかったとしても、面倒見の良さや人間力を育む上では効果的である。
- 施設一体型の小中一貫校となっているが、規模がどの程度になるのかが気になる。給食もそこで作れるようになるのは良い。新しい施設をつくることは良い。
- PTAも一つになるので、親としてはメリットがある。
- 小中一貫になると、卒業式が一回になるのはありがたい。しかし、節目は大切にすることが必要である。

○免許の関係で先生は大変そうだ。

○小中一貫校への再編は慎重に検討するべきである。人数が増えれば、きめ細やかな指導ができなくなり、先生の負担や子どもへの影響について心配もある。

○多い人数の教育がすべて良いというわけではない。多くなることの心配な面もある。

○私自身が通っていた学校は5、6校が統合になった。皆が通いやすい中央に学校を建てるなどを考えてもらえたら、良いかもしれない。

○部活動の存在は大事だと思う。〇〇部の有り無しなどで学校を選択できるようにしてはどうだろうか。

### 3 小学校と中学校の連携

○今は、トライやるウィークや中学校の教師が小学校に来て授業を行う「出前授業」、中学校への入学前に見学や部活動の体験を行う「体験入学」などを実施しており、子どもが安心して進学できるようになった。

○トライやるウィーク時に小学校に来てくれた生徒が、中学校の授業や先生の話などをしてくれる。来週には、中学校の陸上部員が小学校にコーチに来てくれる。緑が丘中校区は進んで小中連携の取組をしている。

### 4 緑が丘中学校区周辺の課題

○緑が丘、青山も高齢化の町になっている。町の再生の道のりは厳しいが、今から手を打っていけば間に合うところもある。

○緑が丘地区は、子どもが集える場所づくりなどに積極的に取り組んでいる。青山公民館では、ロビーで子どもたちが勉強したり、遊んだりしていい雰囲気がある。このようなスペースで、もっと大きいものを作れば、アフタースクールとしても使える。緑が丘、青山、志染の子ども皆が使えるようにしたい。

### 5 その他全般

○三木市には児童館などが少ない。他府県の例を見ると、年配の方が集っている横で、子どもたちが自分で勉強しているような空間がある。他地区から来られた方には、家庭の周辺で遊ばせる場所がないと感じている。田園地帯の中に、デイサービスや集える場所などを作った方がいい。

○他市から三木の田舎に移住していただきと言いつつ、学校が無いでは矛盾がある。しっかりと学校で学べる手立ても考えなければならない。

○学校再編は、人数が減ることが前提で進んでいるが、人口増や町のにぎわいを創る都市計画などはないのか。

○人口増加策や都市の団地再生プログラムにも積極的に取り組む必要がある。行政が頑張らないといけない。市政懇談などで相談していく必要がある。

## 第1回 自由が丘中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年10月18日

会場：自由が丘中学校

### 1 今後の統合案について

- 志染中学校と自由が丘中学校を統合するのであれば、大人は心配かもしれないが、子どもは対応できるのではないだろうか。自由が丘の大部分には住所に志染町とついている。駅名も志染駅である。志染中学校と一緒にすることに違和感はないと思う。
- 志染中学校の保護者の方の心配は深いものがあるので、保護者の交流がとても大事である。学校やPTAを通じて、理解が深まる取組を考える必要がある。
- 他の地域の統合時に子どもや大人の不安がどうであったか、先進事例のデータも調べて欲しい。
- 思春期でまだ不安定な時期の子どものことなので、何も準備や交流をしなければ、悪意は無くとも、「少数の生徒を自由中が受け入れてあげる」という雰囲気が出てくるかもしれない。それではダメなので、統合先を早く決めて、統合の前に交流の回数を増やしていくと、不安も軽減し、意識も変わると思う。
- テレビ会議を使って交流することや運動会の一部を交流するなどを重ねれば、お互いの不安も解消されると思う。
- 1週間のうち、数時間は自由中で学習するようなカリキュラムを作成できないか。
- 自由が丘中生徒も志染中学校へ行って交流するなど、志染中学校の生徒の気持ちに共感し、相手の立場を十分考えて何事も行う事が大切だと感じる。
- かつては、市内の学校が集まって行う連合体育祭があった。そこで親睦を深めることができたが、そのようなものができるとうい。
- 例を挙げるならば、体育祭は参加しやすい行事である。新たな行事は難しいが、今ある行事で、事前に交流を図り、地ならしすることが大切。文化祭で合唱を合同で行うなど、できることからやっていくことが良い。ネットモラル研修などを両校の生徒と一緒に受けることなどもできるだろう。
- 地域で校区を分けるのではなく、通う生徒が選べる方法もあるのではないか。
- 一緒にすることに抵抗はないが、ある一定の距離は徒歩、それ以上は自転車など、自由が丘中学校の生徒と志染中学校から来る生徒に不公平感が無いように、自転車通学のあり方について、自由が丘中学校全体で考えるべきだと思う。

### 2 三木市の学校再編に係る全体案

- 小中一貫校への再編は難しい問題である。大きな敷地の確保も難しい。今後、教育や町がどのように変わっていくのかが分からないところがあるので、既存の学校を使って、施設一体型の学校に再編を進めるのがよいと感じた。



○どこに建てるかが先ずは大きな問題である。次に考えられるのは、小学校と中学校の日課が違うのでチャイムをどうするのか、登校班、給食など時間関係で細かな調整が必要になってくる。

○中学生は多感な時期なので、一貫校になれば、小学生に対して、うっとおしく感じることもあるかもしれない。

○小中一貫校にするのは良いのだが、休み時間に小学生と中学生と一緒に運動場を使うのであれば危険性はないだろうか。中学生といえども周りを見ずに走ったりすることもある。保護者は不安になるから、小学生と中学生が活動する時間や場所を上手に分けるなど、細かいことにも配慮することが必要だと思う。

○新設と既存校舎の活用では変わってくるが、後者の場合、土地の広さ的には、自由中学校になると思う。今の学校は古くなってきている。新しく建てるのがよいが、予算はどうなるか。

○先の話だと思うが、何校くらいの学校に再編するのが良いのか知りたい。

○小中一貫校はどのようなものなのかがまだピンとこない。また、統廃合後の跡地はどう利用するのかを考えていく必要がある。

### 3 小学校と中学校の連携

○夏季休業中に教職員は小中合同で研修を行っている。また、学期ごとに学力向上や生徒指導上について交流し、児童生徒の情報交換も密に行っている。

○児童生徒の活動では、小中合同で募金活動や中学校教員が小学校で授業を行う「出前授業」、小学校6年生が部活、授業を経験する「授業体験」などを行っている。小学校から中学校の9年間を見通した上で、自主学习ノートの活用や学習規律の統一などを図っている。小中の交流はとても進んでいる。

○小学校では、異学年交流も盛んにしている。5年、6年の行っているスピーチの時間に1年、2年生が教室を訪れ、スピーチを聞くことで、相互に良い影響を与えている。校内のスポーツテストは6年が1年を、5年生が2年生を計測する取組を行っている。

○10数年前は、小中の教員の文化に大きな壁があったが、小中連携が進み、それは無くなりつつある。今後も交流していくことが必要である。

### 4 その他全般

○校舎の跡地利用を地域や市ですべて行うのは不可能である。売却や賃貸など、民間にもどう入ってもらうのか考える必要がある。

○考えるポイントを投げかけてもらわないと、これから何を検討すればよいのかわかりにくい。

○最近設置された学校は、将来の施設転用を見越し、トイレ、廊下、エレベータの設置などで工夫をした建設をしている。

## 地域・保護者向け説明会実施状況

	開催日	種別	地区	主な内容
1	2018.7.9	地区懇談会 (小中合同)	志染地区	①全体像もスケジュールが出されるのか ②統合後も学力保障がされるのか、40人学級のままか
2	2018.7.24	まちづくり協議会	吉川地区	①加東市の動きについて聞きたい ②地域部会回数、部会以外に聞く機会はあるか ③H32に実施か、伸びるのか ④小規模校の良いところについて、統合ありきではないか ⑤通学方法は検討が必要、保護者任せはダメ、 ⑥5校への再編の期間が知りたい ⑦まちづくりが大切、人口は今後変わる可能性がある ⑧区長会に早く知らせるべき
3	2018.8.2	区長協議会連合会	全地区	①小学校もありき、アンケート抽出は恣意的になることがある ②区長協議会の再編にもつながるのか ③都市計画マスタープランとリンクしていないのではないか ④「子育てに向かない地域＝学校が無くなる」の構図ではないか
4	2018.8.6	区長会役員会	三木南地区	①登下校の安全は全てに優先する ②魅力的な教育、人を呼び込める教育が必要である ③社会人の基礎を創る教育が必要である ④先生頑張っているが、地域からの要求が高すぎることもある
5	2018.8.8	まちづくり協議会 (区長協議会)	自由が丘地区	①情報化などが進む、学校を集約するというが、将来の学校をどう考えるか ②地域部会では、子ども確保、通学方法についても話し合うのか ③自由が丘地区が抱える問題もテーマの一つか
6	2018.8.16	まちづくり協議会 (区長協議会)	青山地区	①小野市もやっている、兵教大附属などに行っている子がいる 理由は何か ②H32から着手とはどういうこと、昔から吉川は少数でも良い教育があった ③統廃合は良いが、小中一貫がまだどういうものかわからない ④5つの学校は新設か 場合によっては6つにするなどもありではないか ⑤若い方を呼び込む方法を考える必要がある
7	2018.8.22	まちづくり協議会 (未来創生部会)	志染地区	①決め方が拙速すぎる ②地域部会以外でも意見を言う場がある ③統合に反対の意見もある、人口増加対策が必要である ④少人数の中でも子どもは育つ、良いこともある ⑤将来、収入を得られる力を付けることが必要、少人数が悪いわけではない ⑥社会教育が大切、住民の意識向上も必要、数を重視は良くない ⑦小学校については統合すべきではない、もっと深い議論が必要だ
8	2018.8.25	区長協議会役員会	吉川地区	①拙速だと感じる。 ②子育て終了世代ではなく、これからの方に話を聞いてあげてほしい ③人口減が心配 私立に行かせる親や小野に行ってしまう親がいるだろう
9	2018.8.30	地域部会	志染地区	意見のまとめ参照
10	2018.8.31	区長協議会	吉川地区	説明資料への質問のみ有り
11	2018.9.3	地域部会	星陽地区	意見のまとめ参照
12	2018.9.20	市政懇談会	口吉川地区	①ホームページや新聞には情報があったが、地域住民に説明が少ない ②小学校があるから地域コミュニティーが維持できるという側面がある、分校にできないか ③区長協議会の再編につながるという危機感もある ④教育村としての誇りがあり、学校再編は早々に結論を出さないでほしい ⑤地域づくりとあわせ、地域と協力しながら対応することを願う ⑥義務教育学校を目指しているが、6年間で節目があることも意味がある
13	2018.9.22	市政懇談会	吉川地区	①学校再編については、各地区、各学校区で自治活動を進めてきた ②学校が地域コミュニティー形成に役割を果たしている ③学校関係者、地域住民の声をよく聞き、拙速にならないことを願う

	開催日	種別	地区	主な内容
14	2018.9.23	地域住民説明会	口吉川地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域づくりの視点、小学校低学年を口吉川に置く分校案、財政の不安、小中一貫教育への不安</li> <li>②小規模の良さ、教員の視点欠如（働き方、メンタル）、小規模しか知らない世界の狭さ</li> <li>③瑞穂は複式だったが、存続希望は大、大規模の弊害、口吉川という地域に学校の存続</li> <li>④部活動への心配は大（選択の可否、存続）、男女生徒のバランス不均衡</li> <li>⑤幼稚園の統廃合の経緯に疑問だが、同じにならないか、大規模から人を持ってくるという発想</li> <li>⑥保護者のみ、グループで討議など意見交換の方法</li> <li>⑦跡地利用策、独居老人が多いので、衣食住及び医療の複合施設化</li> </ul>
15	2018.9.25	区長協議会	緑が丘地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>①一番ネックは何か：学校が無くなる地域があること</li> <li>②志染が実家で、子どもを青山に呼び寄せた人がある</li> <li>③一旦統合して、一貫校にするなら、その位置、時期を示してほしい</li> <li>④高校の再編について</li> <li>⑤通学の方法はどうするのか</li> </ul>
16	2018.9.27	地域住民説明会	細川地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>①吉川中との統合への反対案、ある程度の学校規模の必要性、地域からの若い世代の流出</li> <li>②アンケート時と方針が変更、再編ありきの進め方、案の廃止・修正の有無</li> <li>③安全第一で通学方法検討、統合（再編）の繰り返しは負担が大</li> <li>④統合やむなしの考えもあるが、存続も検討、小規模のメリット活用、情報の周知、地域資源の活用</li> <li>⑤数字のみによる5校への再編案は単純、各案を具体的に説明（特徴など）</li> <li>⑥細川の生活圏の多くは、三木市街方面、通学時間の長さ</li> <li>⑦瑞穂小統合の実態、統合後の吉川中の小規模化懸念</li> </ul>
17	2018.9.28	地域部会	吉川地区	意見のまとめ参照
18	2018.10.1	地域部会	星陽地区	意見のまとめ参照
19	2018.10.4	地域部会	志染地区	意見のまとめ参照
20	2018.10.10	地域部会	三木東地区	意見のまとめ参照
21	2018.10.11	地域部会	三木地区	意見のまとめ参照
22	2018.10.12	区長協議会	別所地区	説明への質問は特になし
23	2018.10.17	地域部会	緑が丘地区	意見のまとめ参照
24	2018.10.18	地域部会	自由が丘地区	意見のまとめ参照
25	2018.10.22	地域部会	吉川地区	意見のまとめ参照
26	2018.10.23	地域部会	別所地区	意見のまとめ参照
27	2018.10.24	PTA向け説明会	全地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域部会だけでなく、学校単位などで聞いた声（アンケートなど）を会議のテーブルにのせてもらいたい</li> <li>②喫緊の課題の学校を同時期に統合するのか、学校を残せる方法はないのか</li> <li>③地域により学校再編について温度差が大きく、このまま進めていくのは不安がある</li> <li>④新しい学校建設に財政上の課題はないのか、人口増加策の動きも必要だ</li> </ul>
28	2018.11.9	区長協議会	三木地区	開催予定
29	2018.11.16	市政懇談会	志染地区	開催予定
30	2018.11.22	保護者説明会	志染地区	開催予定
31	2018.11.27	市政懇談会	細川地区	開催予定
32	2018.12.1	地域住民説明会	志染地区	開催予定

## 学齡期の子どもの人口予測

- 1 子どもの人口（学齡期）は、各校区に住所がある子どもの数を「住民基本台帳（平成30年4月2日現在）」から抽出しています。したがって、現在の学校の児童・生徒数とは一致しません。
- 2 小学校の平成40年の人口は、平成30年と平成35年を比較し、減少しているところは、その比率で算出しています。また、増加しているところは、全市的には減少傾向にあるため、平成35年度と同数としています。

【 小学校 】

学校名		H30	2023 (H35) (H30年比)		2028 (H40) (H30年比)	
1	三樹小	314	291	-7.3%	270	-14.0%
2	平田小	337	461	36.8%	461	36.8%
3	三木小	321	283	-11.8%	250	-22.1%
4	別所小	323	300	-7.1%	279	-13.6%
5	志染小	73	56	-23.3%	43	-41.1%
6	口吉川小	65	55	-15.4%	47	-27.7%
7	豊地小	54	52	-3.7%	51	-5.6%
8	緑が丘小	321	320	-0.3%	320	-0.3%
9	緑が丘東小	437	359	-17.8%	295	-32.5%
10	自由が丘小	448	427	-4.7%	407	-9.2%
11	自由が丘東小	298	267	-10.4%	240	-19.5%
12	広野小	460	354	-23.0%	273	-40.7%
13	中吉川小	82	60	-26.8%	44	-46.3%
14	東吉川小	63	56	-11.1%	50	-20.6%
15	上吉川小	36	39	8.3%	39	8.3%
16	みなぎ台小	69	54	-21.7%	43	-37.7%
合計		3,701	3,434	-7.2%	3,112	-15.9%

【 中学校 】

単位（人）

学校名		H30	2023 (H35) (H30年比)		2028 (H40) (H30年比)	
1	三木中	361	338	-6.4%	391	8.3%
2	三木東中	397	321	-19.1%	255	-35.8%
3	別所中	153	148	-3.3%	147	-3.9%
4	志染中	43	37	-14.0%	29	-32.6%
5	聖陽中	52	64	23.1%	51	-1.9%
6	緑が丘中	389	380	-2.3%	341	-12.3%
7	自由が丘中	424	355	-16.3%	354	-16.5%
8	吉川中	156	125	-19.9%	112	-28.2%
合計		1,975	1,768	-10.5%	1,680	-14.9%

# 全国の小中一貫校・義務教育学校の設置状況

( ) 数は兵庫県内

学校の種類	平成29年度				平成30年度	
	設置者数	施設形態	校数	合計	合計	
義務教育学校	国立	施設一体型	1校	2校	2校	82校 (2校)
		施設隣接型	1校			
	公立	施設一体型	40校	46校	48校 (1校)	
		施設隣接型	5校			
		施設分離型	1校			
小中一貫校	国立	施設隣接型	1校	1校	253校	
		施設一体型	63校			
	公立	施設隣接型	28校	246校		
		施設分離型	155校			
		施設一体型	3校			
		施設隣接型	3校			
学校法人			6校	未公表		

平成29年度 H29小中一貫教育の導入状況調査(文部科学省)より抽出

平成30年度 H30学校基本調査(文部科学省)より抽出

(参考) 小中一貫教育に関する制度の類型

義務教育学校		小中一貫型小学校・中学校	
義務教育学校		中学校併設型小学校	中学校重構型小学校 小学校併設型中学校 小学校重構型中学校
設置者	同一の設置者	異なる設置者	
修業年限	9年 (前期課程6年+後期課程3年)	小学校6年、中学校3年	
組織・運営	一人の校長、一つの教職員組織	それぞれの学校に校長、教職員組織	中学校併設型小学校と小学校併設型中学校を参考に、適切な運営体制を整備すること
免許	原則小学校・中学校の両免許状を併有 ※ 当分の間は小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能	小学校と中学校における教育を一貫して実施するためにふさわしい運営の仕組みを整えることが要件 例 ① 関係校を一体的にマネジメントする組織を設け、学校間の総合調整を担う校長を定め、必要な権限を教育委員会から委任する ② 学校運営協議会を関係校に合同で設置し、一体的な教育課程の編成に関する基本的な方針を承認する手続を明確にする ③ 一体的なマネジメントを可能とする観点から、小学校と中学校の管理職を含め全教職員を併任させる	所属する学校の免許状を保有していること
教育課程	9年間の教育目標の設定 9年間の系統性・体系的に配慮がなされている教育課程の編成		
教育課程の特例	一貫教育に必要な独自教科の設定 指導内容の入替え、移行	○	○
施設形態		○	×
設置基準	施設一体型・施設隣接型・施設分離型 前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用		小学校には中学校設置基準を適用
標準規模	18学級以上27学級以下		小学校、中学校それぞれ12学級以上18学級以下
通学距離	おおむね6km以内		小学校はおおむね4km以内、中学校はおおむね6km以内
設置手続	市町村の条例		市町村教育委員会の規則等

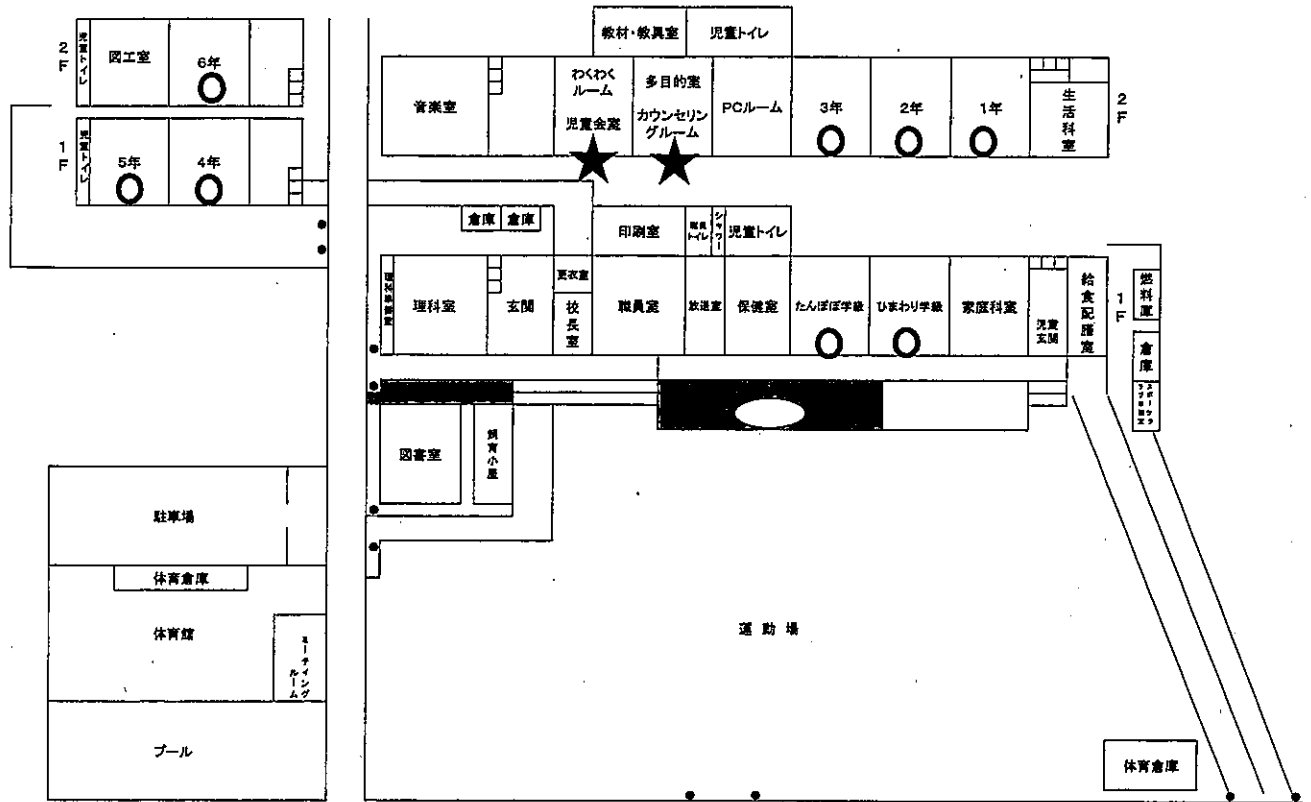
### 吉川4小学校の教室等の設置状況

教室種別		記号	中吉川小	東吉川小	上吉川小	みなぎ台小
普通教室		○	8	7	6	8
多目的室 普通教室へ転用可能		★	2	1	3	9
小計			10	9	9	17
特別教室	音楽室		1	1	1	1
	理科室		1	1	1	1
	家庭科室		1	1	1	1
	生活科室		1	1	—	1
	図工室		1	1	1	1
	PCルーム		1	1	1	1
	図書室		1	1	1	1
	体育館		1	1	1	1
その他	校長室		1	1	1	1
	職員室		1	1	1	1
	保健室		1	1	1	1
合計			21	19	19	28

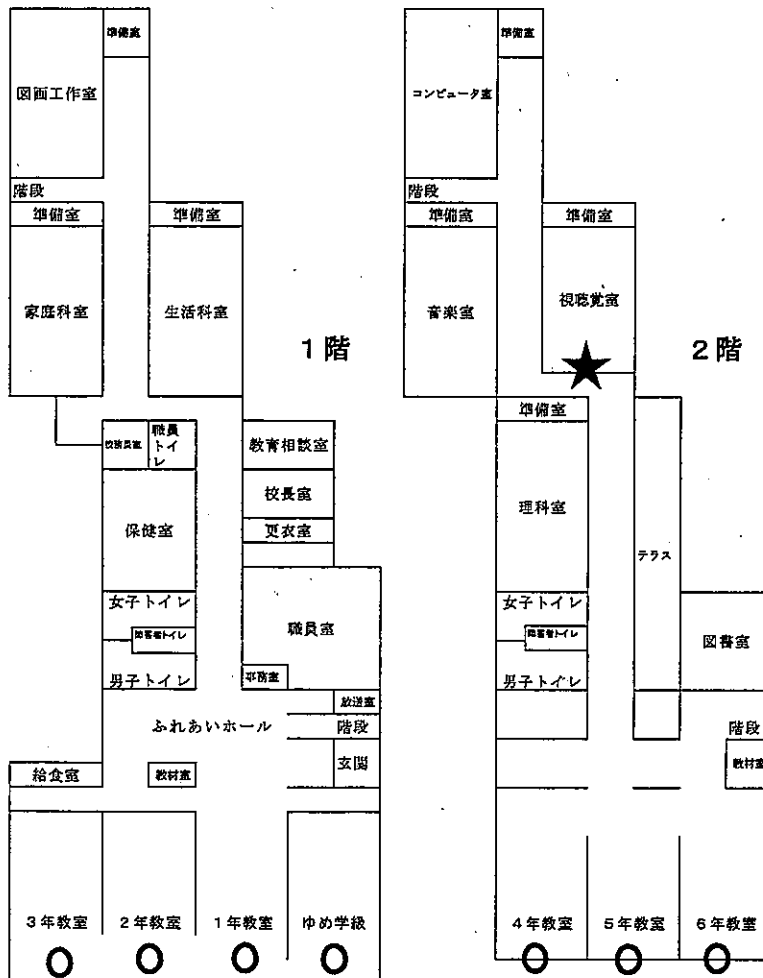
- 今年度は、普通教室（特別支援学級を含む。）として使用
- ★ 現在は、様々な目的で活用しているが、普通教室に転用が可能

○ 普通教室、 ★ 多目的室（教室へ転用可能）

### 中吉川小学校



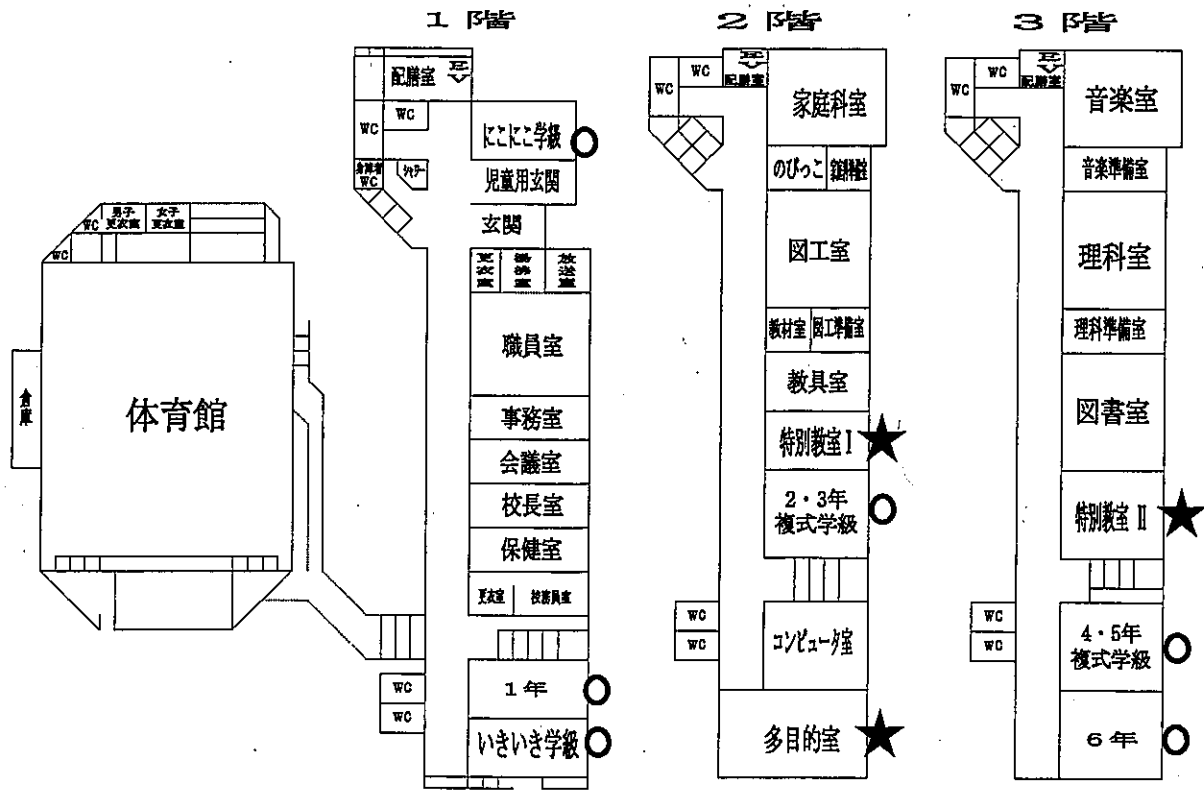
### 東吉川小学校



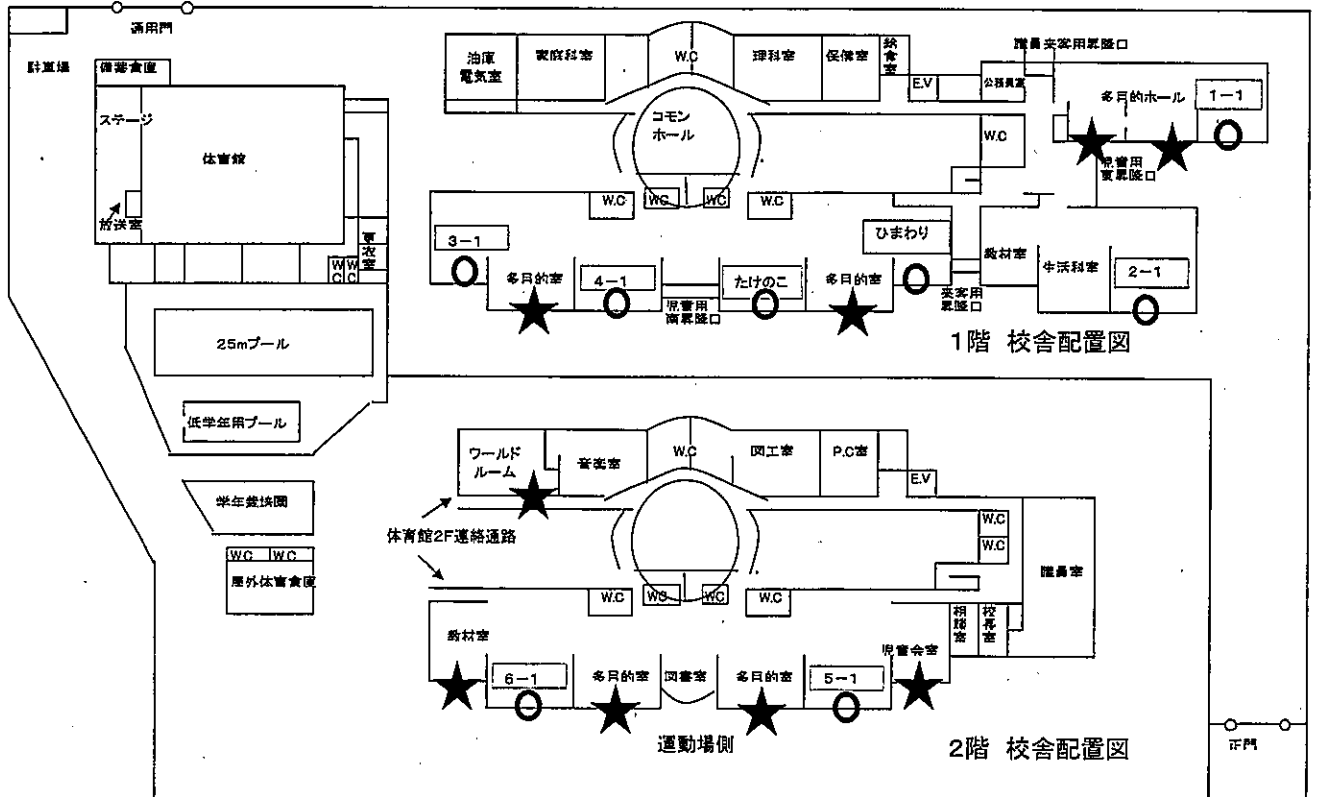


# 上吉川小学校

○ 普通教室、 ★ 多目的室（教室へ転用可能）



# みなぎ台小学校



(教室配置図は、各校学校要覧より抜粋)



平成 30 年度第 2 回（通算第 4 回）三木市学校再編検討会議  
意見・提言等のまとめ

- 1 喫緊の課題の志染中学校、星陽中学校については、スピード感をもって進める。それぞれの「統合先」については地域と意見交換をしながら進める。
  - ①志染中学校の場合、緑が丘中学校か自由が丘中学校という統合案に加えて、行きたい学校を選択する方法も検討する。
  - ②星陽中学校の場合、口吉川小学校と豊地小学校があるので、それぞれの地域の意見を勘案しながら検討する。
  - ③段階的な統合（学年ごとの移行）は可能であるか検討する。
- 2 吉川 4 小学校の統合については、現状での教室数を考えると、みなぎ台小学校が妥当と考えられる。
- 3 子どもの成長度合いや地域コミュニティとの関係から、小学校も喫緊の課題ではあるが、小学校と中学校は取組の早さを分けて考える。志染小学校、口吉川小学校、豊地小学校は、中学校の動向がはっきりしないと決めかねるため、喫緊の中学校の課題を先に取り組むこととする。
- 4 状況に応じて中学校及び小学校を統合し、小中一貫校に再編の後、義務教育学校に再編していく流れは、違和感が無く、国としても進めているところである。
- 5 全体像については、地域や保護者の方が、どの学校とどの学校が統合するのかという、より考えが深められる具体案をいくつか作成すること。その上で内容を説明し、意見交換する。また、意見として出た小学校低学年だけを分校として残す方法も検討する。
- 6 通学方法について、費用負担のあり方、バスだけではなくタクシーなど、多様な通学方法について研究する。しかしながら、徒歩や自転車による子どもの体力面の増進や授業前の心と身体のウォームアップ効果による学習効果も含めて研究する。

地域の実態に応じた選択をしていくため、地域の意見をお聴きしながら通学方法を検討する。

## 平成30年度第2回（通算第4回）三木市学校再編検討会議 要旨

日 時： 平成30年11月5日（月）午後7時～9時

場 所： 市役所5階 大会議室

出席者：

構 成 員 加治佐哲也 国立高等専門学校機構 監事  
山下 晃一 神戸大学大学院 准教授  
小山内政子 三木市区長協議会連合会 会長  
神澤 廣美 三木市区長協議会連合会 副会長  
安福 政明 三木市連合PTA 前会長  
黒井 俊光 三木市連合PTA 前副会長  
前田 信利 平田小学校 校長（小学校校長会）  
野口 博史 緑が丘中学校 校長（中学校校長会）

事 務 局 西本則彦教育長、奥村浩哉教育振興部長、  
生田淳仁学校教育課長、鍋島健一学校教育課副課長

傍聴人の数： 13名

### 1 開会あいさつ

（会長）

学校再編検討会議の役割は、様々な情報や意見を集約し、総合教育会議に提言することであることをまず確認する。

今回は7月にこの会を開催し、事務局からは、三木市の学校再編についての喫緊の課題や全体像について説明を受けた。保護者の方、地域の方に色々なご意見をまずはしっかりと聞きすること、5年・10年先の各学校のある程度の人数を示すことを事務局には依頼していた。また、10月末までに全中学校区で地域部会を開催させていただいた。加えて、地区によって説明会という形で会を開かせていただいたところもある。

今日は事務局からの説明を受けた上で、委員から意見や提言をいただきたい。学校再編については、子どもたちのために、どのような環境が望ましいのかという事で方向性が見いだせるようにしたい。

### 2 報告事項

（事務局）資料を基に説明

- (1) 地域部会での「意見のまとめ」について
- (2) 学校再編に関する説明会等の状況について

（副会長）

意見のまとめを拝見した。多様な意見があるが、取り扱い方やどういう合意の水準で進めていくのかを考えなければならない。

「じっくり進めてほしい」という意見がある。しかし、今現在、学校に通

っている子どもたちの教育環境については、早急に検討する必要もある。全国で子どもの数が少なくなり、学校が減少している。各地域で学校再編が進んでいるが、地理的要因などからやむなく限界になると、小規模でも残すことになる。三木では、まだそこまで行っていない中で先手を打ち学校を残すのか、子どもの数が減っているから学校再編に取り組むという事なのか、意見からは読み取りづらい。「じっくり」についても、どういった期間をさしているのかの考えには至っていない。地域の皆さんには自分の近くの学校もだが、違う学校も見に行き、色々な学校、学びの様子があることを知った上で、考え方を示すことが大切かもしれない。

(委員)

中学校の人数は、なんとかしないといけないという思いがあり、再編には肯定的だと思う。小学校については、地域として大事な子どもたちを地域で育てたいという思いが強いため、今すぐというのは、早いのかなと思う。

(委員)

学校規模を重要視するあまり、無理な統合は行わない方が良い。地域住民との紛争が生じたり、通学する際に困難を招いたりすることは避けたいという意見がある。

(事務局) 資料を基に説明

(3) 学齢期の子どもの人口予測について

(4) 全国の小中一貫校・義務教育学校の設置状況について

(副会長)

例えば、明石市は神戸市の近くという影響もあり、企業が撤退した跡地にマンションが建っている。その地域の学校は、子どもが増えすぎて大変な事になっている。反対に、その周辺に過小規模校もあり、非常に苦しんでいる。一時的なことであるが、神戸市も同様のことが起きている。三木市の場合は、一時的な要素で人口が増大するというのは考えにくい。事務局で作っている数字どおりにはいかないの、再編の際のあくまで一つの目安として捉える。

(会長)

子どもの推移を見ると、予想どおりであるが、厳しい。ある程度の規模のところはかなり減る。小中一貫校、義務教育学校は公立の学校でも今後かなり増えてくる。三木市が今抱えている少子化による新しい学校の形を模索するのは、全国的な動きである。今後、小学校だけや中学校だけの統合では間に合わない。縦の連結は今後も研究されると思うが、間違いなく効果があると言われている。例えば、中1ギャップを緩和したり、不登校が減少したり、学校内で縦の交流ができたりする。

今後の課題になると思うが、中学校で小規模校を残すのであれば、全教科の免許をもっている先生を揃えるのは厳しい等の課題もある。

### 3 協議事項

#### (1) 学校再編の喫緊の課題について

##### ア 中学校（志染中学校、星陽中学校）について

###### (委員)

いつ、どこで、どのようになるのか。人数が少ない分、何とかしなければという不安を持っている。時期を明確に、どちらの学校になるのかなど、悩んでいる。統合の仕方も、まとめて行くのか段階的に行くのかを聞かせてほしい。

###### (事務局)

一度に統合する場合や段階的に統合する場合があるが、それぞれメリット、デメリットがある。段階的に行った場合、教職員数は学級数で決まるので、最終年度に1学年だけ学校に残ると、教員の配置が2、3人になる。2、3人の教員が9教科の全部を教えなければならないということがあり、不都合が生じる可能性がある。

###### (会長)

この規模でいうと、ある時点でだいぶ前に予告して、一度に統合することが現実的ではないかと思う。

###### (委員)

中学校は小学校と違って縦の繋がりが強く、その中で様々な経験をするが、段階的に学年を移動させたら、1度も先輩の経験がない子どもが出てくる。

小学校と中学校については、役割に違う所があるので、統廃合については、小、中分けて考える方が良いと考えている。

###### (委員)

星陽中学校の子ども達は、通学距離が長いので、通学方法を考えておかなければならない。バスしかないのではないかな。自転車でと言える距離ではないと思う。

###### (会長)

バスがなければ、選択肢にならないということか。交通手段が、確実に確保されるのかがはっきりしないと判断しづらい。

###### (事務局)

子どもの安全を確保するのは当然のことで、統合先が決まった場合の交通手段については、距離が長いときはバスを導入するのか、自転車で通わせるのか議論に上がる。

###### (委員)

志染中学校と星陽中学校を同じように考えるのは難しい。星陽中学校の生活圏の問題が提示されていたと思う。先を見通し、義務教育学校を考えると、志染小学校は中学校と同じ地域の学校と統合していくと思う。

星陽中学校には2つの小学校がある、口吉川小学校の子どもたちは、吉川中学校に通う方が楽な子が多かったり、豊地小学校も校区が広いので、吉川中に近い子もいたり、三木中学校に近い子もいたりするというような状況で

ある。

将来的に、吉川近隣地域で義務教育学校ができた時に、どの辺につくられるかによって、豊地小の子も「吉川近隣地域に新しくできた学校の方が通いやすいな」となってくる場合もあると思う。そうすると、あまり長いスパンで考えるということができないと思う。先ほど副会長がおっしゃった「じっくりと考えましょう」の「じっくり」について、時間をかけても、堂々巡りになってしまう可能性があるので、ある程度のところで結論を出して考えていかないといけない。ビジョンが出てくることによって、分かれて吉川中学校と三木中学校へ行くのか、吉川中学校に全部行くのか、という星陽中学校のビジョンも出てくる。

#### イ 吉川4小学校について

(事務局) 吉川4小学校の施設について説明

(委員)

みなぎ台小学校ができたころは、1学年2～3クラスあった。このクラス数を見れば、集約する学校の施設としては妥当と考える。

(委員)

吉川の4校の小学校は、交流を現在しているのか。

(事務局)

主には、行事を通じてしている。例えば、5年生の自然学校、6年生の修学旅行などは4校で一緒に行っている。学習分野についてもできるところはしている。人権学習などでは、講師に来ていただいて、話を聞いたり、話し合ったりするのを4校が集まって行っている。

(委員)

子ども達は、比較的和気あいあいとできるのかなと思うが、保護者だとなかなか和気あいあいというのは、小学校も中学校もできるものなのかなと思う。

(委員)

吉川中校区で、みなぎ台以外から通う子どもは、何らかの通学方法を考えなければならない。

(会長)

地域部会では吉川の4小学校について、統合で一致しているのか。

(事務局)

地域部会だけで判断するのは難しいが、統合した方がいいというご意見はある。また逆に、小規模校がいいというご意見も並行してある。いろいろな機会に地域の方とお話しするが、4小学校の子どもの数から判断して、統合するべきではないかというご意見は耳にしている。

(委員)

4つの小学校がみなぎ台小学校で一つになるということは、その前に幼稚園も一つになっているので、丁寧に説明すれば、すんなりと行くのではない

かと思う。

子ども達がいい環境で学習するためには、みなぎ台小学校に集まることがベストだと思うので、その説明をきちんとしたらスムーズにいくと思う。子どもたちの教育についての説明が大切だ。

ウ 小学校（志染小学校、口吉川小学校、豊地小学校）について  
（委員）

志染は横に長く校区がある。志染の吉田地区から緑が丘中学校に行くとなれば、結構交通量の多い所もある。もし、吉田地区の子どもは、自由が丘中学校の方が近いということになれば、歩いていけるので自由が丘中学校に行ってもいいのではないかと思う。やはり、通う子どもに合わせて決めてあげてほしい。画一的に、この地区やから、ここに行きなさいというのではなくて、行きたい地区があれば行けるようにしてあげたらどうか思う。

親にすると、自分たちが通った学校が無くなるのはものすごく寂しい。ある部分では、少人数であってもそういう所も認めていただきたい。

統廃合された場合、すぐ適応出来る子と性格的にできない子がいると思うので、その辺の気持ちを考えてほしい。

（会長）

志染小学校（中学校）に通う子どものうち、吉田地区の子を分割してというのではなく、選択するという方法もあるというものであった。

口吉川小学校や豊地小学校についても、中学校の統合によって変わってくる。

エ 通学方法について

（副会長）

地形の関係、昨今の交通事故や事件があり、自転車に若干抵抗があるのかと感じる。

和歌山県の例では、スクールバスを出して、小学校の場合は放課後友達と遊びたいのに、スクールバスの時間があるから遊べないということもある。体力低下も心配されるので、体力作りの施設を作って体力向上をすることで、バスの整備をする際には、色々なことを考えねばならない面もある。

状況によってはスクールバスだけではなく、タクシー会社と契約する方法もある。少し似たような地形に絞りながら、全国の様子を調べてもらうのがいいと思う。ベストが何であるかは分からないが、考えられるデメリットについては、きちんと手立てを打っていく、それでもカバーできない所は仕方がないので、別の事をしていくことが必要である。地域部会から具体的なアイデアを聞いていくのもいい。スクールバスの費用の面も並行して調べていく必要がある。

（委員）

スクールバスの負担は、保護者が出すのか？



(副会長)

国庫補助金等もあるが、保護者の負担もあるかも知れない。

(会長)

地域振興のため、自治体が負担するという考え方もある。また一方でご自身が希望した学校に行く事になれば、ある程度自分で負担していただくこともあるかもしれない。

(2) 学校再編の全体案について

ア 学校再編の全体案について

イ 5校程度とする案について

(会長)

全体像としては、喫緊のところから統合し、小中一貫校や義務教育学校にしていく案が示された。地形や現在の学校配置から勘案して、5校程度という案が示されている。吉川中校区、星陽中校区を合せた面積はかなり広いが、それをどうしていくのか。

(委員)

小規模校には、小規模校のメリットがある。年齢が低い方が、小規模校のメリットが大きいと思う。中学生くらいになれば、ある程度の集団規模があった方がメリットは大きい。小学校と中学校では、集団規模の必要性は変わってくる。そういう意味で中学校については、ある程度スピード感をもって話を進めていった方が良い。

一方、小学校については、中学校と同じように小学校1年に入った段階で、「あなたはここへ行きなさい。」と言われたら、ちょっとしんどいかなと思う。

保護者と地域という二つの視点で考えた時に、そこにはやっぱり違いがある。保護者は、自分の子どもが学校とどう関係するかが一番の関心で、地域は将来的にこの地域がどうなっていくかが一番の関心である。そこは多少の違いがある。

もし私が地域の人間であったとすれば、将来的にどこにどんな学校が建つのかが知りたい。保護者であったとしたら、どういうふうなロードマップで進んでいるのかが知りたい。極端なことを言うと、小学校低学年だけ残すということもあっていいのではないかなと思う。小学校3年生までは地域の学校で過ごし、4年生から中学校区の学校で過ごすなどの案もある。

(委員)

中学校については、星陽中学校、志染中学校を見ていても、早くしていかないといけないというのが共通認識になっている。どこを統合するかということになってくると、一つにまとめるのは難しい。方向性が決まれば、保護者は進んでいくと思う。小学校については、時間をかけていかないといけない。

今後人口が減り、例えば小学校では、1クラス10人未満になり、全校で30人もいない状況になってくる。今は良いが、これで続けられるのか。再編の

方法によっては、兄弟が別々の中学校になる可能性もあり、保護者は大変であるため、もう少し議論をしていく必要がある。

全体像のイメージが持ちにくいので、分かりやすく伝えていただけたらイメージができるのではないかと思う。

(会長)

こういう問題はいろんな意見が出てくるが、それは当然であり、むしろ意見を出して議論をすることに大きな意味がある。いただいた意見は、それぞれの立場においては、全部正しいものだと考えられる。しかし、今後は、総合的な見地から判断し、何らかの1つの方針を決めて行かないといけない。そのためには、ある程度の構図なりビジョンなり、いくつかの選択肢が示されてこないと議論が常に拡散する。その中で議論する方が、現実的で効率的である。

事務局から例えば、学校名を入れた「こういう案はいかがですか」といくつか出し、それを検討していく。そして、いくつか出たものをつなぎ合わせるのが良い。いずれ今年度中には何らかの方針案、来年度には実施計画を作らないといけない。並行して小中一貫校や義務教育学校、通学方法の研究なども更に必要となってくる。

(委員)

中学校統合、小学校統合、そこからの小中一貫校をつくり、将来的には義務教育学校という段階を踏まなければならないのか。義務教育学校を5校作りますというタイミングで、ここの学校はここの校区の子どもが行きましようというわけにはいかないのか。段階を踏まないといけないのか。

(会長)

まず中学校、そして小学校が推移を見ながら再編し、小中一貫校にして最終的に義務教育学校にしていく。この流れは極めて自然で、他市町の多くがこの方法をとる。国もそういった諸課題を解決するために、小中一貫校や義務教育学校をつくった経緯がある。違和感はない。

これからは、スケジュールと組み合わせを考えていく。自由選択制の意見も出た。いくつかの案として、今後示さないといけない。

(事務局)

いただいたご意見について検討し、示せる案を作成していく。

(会長)

今日の意見をまとめさせていただくと、

- ・小学校と中学校は、取組の早さを分けて検討するほうが良い。
- ・喫緊の課題のところは優先して取り組むべきだが、志染小学校、口吉川小学校、豊地小学校は、中学校との絡みがあつきりしないと分からない。学校選択制も考えていかないといけない。
- ・通学方法については、費用負担のあり方、バスやタクシーだけでなく、子どもの学習効果や健康面など、いろんな事も含めて研究する。
- ・考えが深められる案（学校名を入れた構図、ビジョン）をいくつか作る。

(副会長)

確認だが、中学校については、スピード感をもって進める。志染中学校、星陽中学校についてはできるだけ早く進める。統合先については、地域と意見交換をしながら進めることとなる。

(会長)

小学校を本校と分校の二つに分けて考えるという意見も出てきた。

(委員)

5校程度とする案について、私自身は妥当かなと考える。極端にこれを減らすことについては、怖いと思う。3校のイメージでは、やり過ぎと思う。

(会長)

どの時点で、とりあえずの最終形とするのか。それによって変わる。「学校」というものの形が、将来的にどうなるかは分からない。

#### 4 閉 会

(副会長)

地元の方のご意見を拝見したときに、気になったことがいくつかある。ある程度共通するビジョンを持ち、実際やってみながら考えて工夫してやらないといけない事がある。

1つ目は、事務局だけではなく、地域の皆さんが自ら考え、行動していくという意識をもつ必要があると思う。危機意識がまだ薄い地域があるのは、意識が薄いだけで危機が薄いわけではないので、そこは注意しないといけない。危機意識を共有しながら考えていかないといけない。色々な意見をぶつけ合って、新しいエネルギーを生み出せないかと考える。

二つ目は、「全体の校区の線引きをやり直せないか」という一方で、「自分の地域から学校が無くなる事については抵抗がある」という事になってくると、どのように村の線引きをやり直せばいいのかということになる。

人口が減ってきている中で、少なくとも若い世代が減ってきている中で、人の繋がりが広がっていったらいいと思う。三木市の子どもたちは、三木市全体で育てるという意識でやっていくことが大切だと思う。学校での子どもの繋がりはどういったものが良いのか、大人の繋がりはどうすればいいのか、今の繋がりとはい違う繋がりをつくる観点が必要だと考える。



平成30年度 第2回総合教育会議 要旨

日時：平成30年6月27日(水) 午後3時～4時40分

場所：市役所5階 大会議室

出席者：

構成員 仲田市長、西本教育長、井口委員、石井委員、浦崎委員、大北委員  
事務局 山本総合政策部長、石田教育総務部長、奥村教育振興部長、降松企画政策課長、五百蔵教育総務課長、生田学校教育課長、清水企画政策課主幹、坂田学校教育課副課長（企画政策課副課長）、鍋島学校教育課副課長、能出教育総務課政策係長、岡島企画政策課主事、企画政策課竹谷

傍聴人の数：7名

1 開会、あいさつ

(仲田市長)

5月7日に続き、本年度第2回目の総合教育会議である。前回の総合教育会議では、学校再編を検討するに当たっては、子どもを中心に考えていくことと集団教育の必要性について、委員の皆様と認識を共有した。

よって、当初は中学校のみの再編ということであったが、小学校をも含めて、市全体で考える必要があるという結論に至った。

そして、生徒数の少ない志染・星陽・吉川中学校区の小中学校については、早急に対応していかなければならない。

また、学校の統廃合では、やはり「地域」が非常に重要なキーワードになるため、保護者や地域の方々の意見を十分に聞いた上、判断しなければならない。

これらを前提に、本日は、学校再編に向けての新たな議論を進めたい。

2 議事

(鍋島学校教育課副課長)

資料に基づき事務局説明

- ・資料1 学校を再編する手法（学校選択制と学校統合）  
学校を再編する手法（小中一貫校と義務教育学校の違いや特色）
- ・資料2 三木市の学校再編（全体案）

(仲田市長)

施設一体型とは、小・中学校が同じ敷地内にある小中一貫校ということか。

(鍋島学校教育課副課長)

同じ敷地内にあるものを想定している。

(浦崎委員)

地域の意見を聞くという点について、どのような方法を考えているか。以前に、志染、口吉川、細川についてはアンケートを実施している。今回はどのような方法で意見の集約を行うのか。

(鍋島学校教育課副課長)

本日の総合教育会議の方向性を受け、有識者会議である学校再編検討会議を開催して協議を行う。また、中学校区ごとに地域部会を設置し、保護者、地域の方々、学校関係者が構成員となり、さまざまな角度から意見を出し合っただけその意見を検討会議に上げていただく予定である。

(浦崎委員)

志染・星陽中校区には、既に説明を行ったのか。

(生田学校教育課長)

一定の説明はアンケート時に行なっているが、今後設置する地域部会の中で、地域の意見をしっかりと聞きたいと考えている。

(石井委員)

視察に行った義務教育学校では、1年生から9年生までが一体型の施設で過ごすことで、リーダーシップを発揮する機会が増え、例えば、9年生が低学年の生徒に付き添って登校する姿が見られるということである。地域や放課後での友だち同士の遊びが希薄になっている現代では、子どもたちが、やがて社会に出るに当たって、縦のつながりにおいて学校の果たす役割が非常に大きいと感じており、義務教育学校という制度自体に非常に魅力を感じている。

(仲田市長)

確かに義務教育学校では、9年生までが同じ学校ということで、年長者であるという意識を持つ生徒も増えるであろう。

(井口委員)

私も常々、小中一貫教育を提唱している。兄弟が少ない生徒でも、学校で年

長者になれば、意識も持てる。そのことが大切だと思う。義務教育学校を推したい。ひとつ聞くが、義務教育学校の制度で前期課程と後期課程となっているが、「4・3・2年制」に関してはどう考えているのか。

(鍋島学校教育課副課長)

義務教育学校の中には、「6・3年制」という基本的な形を維持しつつ、「4・3・2年制」で様々な行事や取組をしているところがある。

具体的には、4年生、7年生、9年生など、リーダーとなるそれぞれの学年が、活躍する機会を得ることができる。

また、中学校2年生に当たる8年生については、いわゆる中学校に慣れてくる年代であって、進路を考えるには少し早いという時期であり、心身が発達する時期であるため、少し不安定な学年であると言われている。

しかし、8年生の生徒が多くの下級生と関わり、リーダーシップを発揮することで、目的意識や自尊感情が芽生えて、優しくなるという話を先進校の校長から聞いた。

(生田学校教育課長)

地域や学校の特性があるので、委員が言われた「4・3・2年制」以外のくり方も考えられる。それを校長の判断で決められるという自由度がある。

(仲田市長)

確認するが、義務教育学校では、「6・3年制」もあれば「4・3・2年制」もあり、校長が選択できるということか。

(鍋島学校教育課副課長)

教育課程については「6・3年制」が基本である。しかし、学校行事等を「4・3・2年制」で行うこともできるということである。

(西本教育長)

教育カリキュラムについては、小学校6年間と中学校3年間のカリキュラムを行う。学校行事等の教育活動の中で「4・3・2年制」にすることで、例えば4年生が最高学年となって下級生の世話をし、また、次の3学年の中では、中学1年生が、小学校6年生及び5年生を見ることで意識が変わるという制度であり、義務教育本来の教育カリキュラムと「4・3・2年制」の教育活動は、別に考えなければならない。

(大北委員)

小学校教育課程と中学校教育課程は、法律で定められている。教科書を入れ替えたり、学ぶことを入れ替えたりすることはできない。しかし、その他の社会性を培うことなど、多くの学びの中で、「4・3・2年制」も良いし、地域性やめざす子ども像の違いにより、それ以外のくくり方であっても良い。その自由度が義務教育学校の良さであると思う。一方、小中一貫校では、そのようなことは難しい。義務教育学校が、最終的な理想の形と捉えていいのではないかと思うが、どのような条件が揃えば、小中一貫校から義務教育学校へ移行することができるのかという点について、説明願いたい。

(鍋島学校教育課副課長)

教員免許の問題である。現在、教職員免許法では、義務教育学校については、小・中学校両方の免許を持つ者でなければ教員を務めることができない。ただし、当分の間は、どちらか一方の免許保持者でも良いと法律で定められている。

(仲田市長)

義務教育学校へ移行するための条件が整う時期はいつか。

(鍋島学校教育課副課長)

詳しい時期は決まっていない。

教員確保の問題があるため、全ての学校ですぐに義務教育学校化というわけにはいかない。

現在、市内の小学校教員のうち、中学校の教員免許を保持している者の割合は約57%、中学校の教員で小学校の教員免許を保持している者の割合は約22%である。

また、学校の規模があまりに大きい学校になると、せっかくの利点である縦の連携が取れず、横の連携だけで手一杯になる。そのため、適正な規模になってから義務教育学校化するべきである。

(大北委員)

小中両方の教員免許保持者の年代の割合なども調査すれば、予測も立てやすくなるのではないか。いつまでに実現できるか見えていないという点については、不安を感じる。

(西本教育長)

先ほど事務局から4つの小規模校解消の手法について説明があった。やはり、



学校選択制は不安定な部分があるので、デメリットが大きいと感じている。小規模校を解消する手法として、まずは統廃合によって一定の規模を確保する。そして、めざすべき義務教育学校へ移行するにしても、子どもたちや教員が小中一貫教育に順応するための助走期間も必要であると感じる。

現段階で明確な計画を立てることができなくとも、我々が最終的な着地点を示すことにより、そこへ向かって統廃合、小中一貫という過程の中で、子どもたちにとって望ましい学校づくりができるのではないかと考える。

人口推計から言っても、30年後には現在の児童・生徒数が半減するということなので、20年、30年先を見通した上での全体像であるべきだと思う。

(大北委員)

確かに、視察先のように一足飛びに義務教育学校に移行するより、段階を踏んだ上の方が、着地も上手にできるのではないかと考える。

(西本教育長)

視察の件について、和歌山の義務教育学校を1校と、大阪の小中一貫校を1校、学校の規模としては、9学年で600～700人程度の学校を視察した。

和歌山の義務教育学校については、まずは小中一貫校をめざしていたが、途中で義務教育学校に切り替えて、一足飛びに義務教育学校を設置したというケースである。

三木市においても、一足飛びに義務教育学校に移行することも不可能ではないが、状況を見て判断するべきであると考えます。

(仲田市長)

最終的な着地点としては、義務教育学校をめざすということでしょうか。

教員の免許の問題や学校数によって校長の数も変わってくるが、これについては別の議論とする。

これから人口が減ってくることを踏まえた上で、各学年2学級以上を確保することを考えると、最終着地点である9年制の義務教育学校を、現在の市内小学校16校、中学校8校について、何校区に再編すべきと考えているか。

(鍋島学校教育課副課長)

現在の8中学校区を小中一貫校、義務教育学校に再編する場合、5校区程度が妥当であると考えている。

(仲田市長)

その根拠は。

(鍋島学校教育課副課長)

2045年には、5歳から14歳までの10学年で約3,000人になると推計されている。つまり、全市で1学年300人程度になる。それを5つの学区で再編すると、計算上では、1校の1学年当たり60人となり、1学年2学級を確保できる。このことから5学区が妥当ではないかと考える。

(仲田市長)

5学区に分けることの是非については、後ほどの有識者会議でも議論があるかと思う。

この場では、人口推計を見て、どの組み合わせで再編するかは別として、5学区で再編することを素案とするということでこの議論を終了してよいか。

まとめると、学校選択制は、毎年の子どもの数が分からないというデメリットが大きい。学校統合についても、仮に志染中学校と星陽中学校を統合しても、また次の統合を考えなければならず、長期的にはメリットよりデメリットが多い。よって、小中一貫校を経て、最終的には義務教育学校をめざすということになる。

次は、統廃合を行う際に考慮すべき事項、そして喫緊の課題として、志染・星陽・吉川中校区のあり方について事務局から説明をお願いします。

(鍋島学校教育課副課長)

資料に基づき事務局説明

- ・資料3 統廃合をする際に考慮すべき事項
- ・資料4 喫緊課題対応 志染中の再編(案)
- ・資料5 喫緊課題対応 星陽中の再編(案)
- ・資料6 喫緊課題対応 吉川4小学校の再編(案)

(仲田市長)

志染中学校の再編について、事務局の案としては、緑が丘中と自由が丘中の2つの案があるが、学校への距離など色々な意見があるかと思う。ご意見等があれば伺いたい。

(浦崎委員)

志染地域の事情と距離的なものがよく分からないので、説明してほしい。

(鍋島学校教育課副課長)

学校の位置については、資料に記載のとおりである。実際に生徒がどの辺りに多く住んでいるかということについては、高男寺や窟屋辺りの地域に十数人という規模の塊がある。

(仲田市長)

高男寺、窟屋は、緑が丘中、自由が丘中のどちらに近いのか。

(鍋島学校教育課副課長)

緑が丘中の方が近い。

(仲田市長)

その地域に1つの塊がある。

(鍋島学校教育課副課長)

また、もうひとつの塊は吉田地区にある。この地域は自由が丘中に近い場所であり、こちらにも十数人の塊がある。それ以外については広く分布している。

(石井議員)

緑が丘中の方が近いとは思いますが、通学路が広域になるため、安全面も考慮すべきであり、単に距離が近いという理由だけでは判断できない。

(仲田市長)

通学路に関しては地元の方が詳しいので、きちんと議論を行い、ある程度理解がいただけることを前提で話してもいいかもしれない。

(西本教育長)

志染地区を地図で見ると、東西南北に非常に広いことが分かる。志染地区を自由が丘中と緑が丘中に2つに分けるということも考えられるが、地区のコミュニティを考えると分けない方がいいのではないかと思う。その上で、東側の広がりを見ると、全体的にはより近い緑が丘中の方が望ましいのではないかと思う。

(井口委員)

仮に志染中を緑が丘中へ統合するということになると、やはり歴史も違ふし、地域のコミュニティに関する意識の問題も多くあると思うので、地域の方々と

しっかり相談しながら進めていくべきである。

(仲田市長)

通学路の安全面の確保と、地域部会で、地域の方々の意見をしっかりと聞いていただきたい。

この総合教育会議では、志染中は緑が丘中と統合することが望ましいという結論でよいか。

次に、星陽中の再編について説明があった。星陽中が吉川中と統合した場合は、全ての学年が2学級になる。星陽中が三木中と統合した場合、吉川中の2年生、3年生が1学級になってしまうということである。また、口吉川と豊地を分割して統合した場合、豊地が三木中に統合すれば4学級になる一方、口吉川だけを吉川中に統合した場合、3年生は1学級になる。

(石井委員)

学校再編の1学年2学級を確保するという、当初の目的は外せないと思う。何度も統廃合を繰り返すということは、一番避けたいことであるので、先を見越して、星陽中と吉川中との統合を支持する。

先のことを見据えると、例えば、人数を確保するため、一番早い段階で義務教育学校に移行する可能性も考えられる。まずはクラス替えがきちんとできる2学級を確保した状態で統合することが望ましい。

(仲田市長)

確かに、最初の段階で各学年2学級以上を確保するという前提であったので、そういう意味では、星陽中は吉川中との統合が望ましい。

早期に義務教育学校へ移行という点について、事務局の意見はあるか。

(生田学校教育課長)

星陽中を吉川中と統合しても、依然として小規模であるため、子どもたちのことを考えると、横ではなく縦の連携を進める必要がある。そういう意味では、小中一貫校又は義務教育学校ということも十分考えなければならない。

(西本教育長)

早い段階で義務教育学校へ移行するという点については、例えば、吉川中校区と星陽中校区の中間点で新しい学校を建てるということも考えられる。そうならば、地域の意見も、考え方も変わってくる可能性があるため、時間をかけて議論を行わなければならない。

(仲田市長)

仮に、今の吉川中の場所ではなく、口吉川に学校を置くということになれば、豊地小校区の方の意見も変わってくるであろう。そういったことも踏まえて、しっかりと今後の議論を重ねていくべきである。

(大北委員)

はっきりとした小中一貫校、義務教育学校設立の見通しがあれば、遠い中学校まで通うことについて理解を得られるのかもしれないが、時期の見通しが立っていないうちから長距離を通学させることは、心苦しい。

(仲田市長)

確かに、保護者の立場では、いつできるという目途が立っていない状態にもかかわらず、細川の西村などから吉川中へ通わせるのかという議論は出てくると想定される。

有識者会議や地域部会で意見は聞くが、例えば、中間地点である口吉川辺りでの学校建設もあり得るとした方が、議論がしやすいと思う。

(浦崎委員)

コミュニティバスなどの交通網を充実させてほしい。

(仲田市長)

通学手段については、様々な方法が考えられる。場合によっては、地域部会からスクールバスの運行という意見も出てくるかもしれない。十分に議論をして、通学手段の問題、学校の場所についても、早期に説明できる案を作成するというのを補足させていただいた上で、これまでの我々の議論の前提である1学年2学級以上を確保するという考えから、星陽中については、吉川中に統合することが望ましいということでのよい。

また、教育委員会と総合政策部には、それぞれの事務分担について連携をとること。

次に、吉川の4小学校の再編の議論に移る。

確認だが、吉川の4小学校を統合する場合、児童全員を受け入れる収容力があるのはみなぎ台小学校ということでのよい。

(鍋島学校教育課副課長)

そのとおりである。

(仲田市長)

では、吉川の小学校4校については、みなぎ台小学校への統合ということでよいか。

ただし、吉川の4小学校を統合したとしても、1学級になる学年がある。

口吉川小と豊地小も含めて統合すると、全ての学年で2クラスになる。

また、先ほどの中学校再編における議論と同じように、新たな小中一貫校を早期に建設する場合については、それに合わせて統合することも考えられる。

(石井委員)

小学生は基本的に徒歩通学となる。場所については、施設の収容力も考えてみなぎ台小しかないが、地域に提案する時には、人の目の垣根隊など、地域のボランティアのあり方についても念頭に置いて地域部会を進めてほしい。

(奥村教育振興部長)

見守り隊のあり方についても、継続して検討していく。また、実際に徒歩による通学が可能なのかどうかについても、地域部会において議論していただき、子どもたちの命、安全を第一に検討したい。

(大北委員)

第一に優先すべきは、1学年2学級よりも、子どもの命であることは当然である。登下校については、バスを考えているのか。

(生田学校教育課長)

ここで結論を出すことはできないが、バスも含めて検討する。

(大北委員)

遠くに位置する上吉川小の児童などは、ほとんどが徒歩での通学は簡単といえない。例えば、公共交通機関のバス又はスクールバスなど、市に通学手段の確保案があるのかどうかで、保護者や地域の方々の考え方も変わってくる。これは非常に重要なことなので、もし地域部会で議題として出した時に質問されて答えられないようでは困る。

(西本教育長)

当然、子どもの安全第一で、色々な手法を考えていかないといけないと思う。地域部会でも安全確保の意見が出ると思うので、事務局としても準備しておか

なければいけない。

また、小中一貫校、義務教育学校の場所などを検討しておかないと、星陽中と吉川中が統合した場合、必然的に口吉川小と豊地小は統合後の学校へ通うことになるので、星陽中、吉川中校区については、ある程度学校の位置や通学路、通学方法を慎重に検討した上で、地域部会において説明していく。

(仲田市長)

1 学年 2 学級を保つことが前提であるが、一番大事なことは子どもの安全なので、市長部局と教育委員会の事務局でしっかりと内容を詰めて行くこと。

(浦崎委員)

最終的に小中一貫校、義務教育学校で 5 校区にまとめる場合、財政的な点でも市民は不安である。

(仲田市長)

財政面を無視するわけにはいかないが、子どもの教育を第一に考えていきたい。

今回の総合教育会議では、吉川中校区の小学校 4 校については、収容力のあ  
るみなぎ台小に統合することが妥当であることで認識した。

豊地小、口吉川小の問題については、児童数や通学方法、また、将来の小中  
一貫校や義務教育学校の場所等も含めて方向性を検討していきたい。

(鍋島学校教育課副課長)

・今後の進め方について説明。